# 第2部　各分野での震災後の取り組み
# 第10章　観光の被災と復興

藤野陽平

## はじめに　―宮古の観光の被災状況―

岩手県沿岸の様々な産業に大打撃を与えた東日本大震災であるが、その中でも最も打撃の大きかった産業の一つに観光業があげられるだろう。それは震災直後、特に東北三県への観光客が激減したというだけではなく、宮古の観光地は浄土ヶ浜、三王岩、鮭ヶ崎等と沿岸部に集中しているため、実際に多くの施設が被災し、直接的な被害も大きかったことも含まれる。

一方で、宮古市にとって観光業は復興に向けてとくに取り組むべき産業の柱の一つに位置づけられてもいる。例えば、『広報みやこ』（以下、『広報』）141号には宮古市震災復興基本方針の概要が掲載されているが、観光に関しては損壊した国立公園施設や主要な観光施設などのがれきの撤去作業と、観光施設などの早期復旧を行うとしている。また、151号には「被災した観光施設などの早期復旧を図り、本市の特徴である豊かな地域資源が総合的に結びついた魅力ある観光の復興・再生を図ります」、「観光施設などの復旧、受入体制の再構築・支援、地域観光資源の再生、復興情報の発信・誘客促進」と積極的に観光の復旧に注力することが明記され、161号に掲載された復興計画の推進計画の産業・経済復興の項目に、「観光の復興・再生」として「観光客誘客促進事業など」、26事業が採用された[注(1)]。このように観光の復興は官民あげての事業であると認識され、多くの関係者が取り組んでいる。

具体的に宮古の観光客数を見てみると2009年に169万8千694人、2010年に124万2千425人だった訪宮客は東日本大震災以降、2011年には33万6千464人、2012年73万9千580人、2013年110万6千606人と徐々に以前の賑わいを取り戻しつつあるが、今なお震災以前より少ないという状況である。なお、2013年度の宮古市の主要なイベントと参加者数は表1の通りである。

表1　イベントと参加者数

| 月日 | イベント | 参加人数 |
|---|---|---|
| 2月17日 | 毛ガニまつり | 15,000 |
| 4月28～29日、5月3～6日 | 浄土ヶ浜まつり | 25,365 |
| 8月31日～9月1日 | 閉井川遊イング | 1,700 |
| 9月7～8日 | やまびこフェスタ | 7,500 |
| 10月5～6日 | 宮古市産業まつり | 11,255 |
| 10月20日 | 新里まつり | 7,000 |
| 11月24日 | 鮭・あわびまつり | 8,000 |

（H.25年度、宮古市統計より）

観光地の被災状況は、被害推計が136億40万円で自然公園が16か所（園地施設10か所、野営場2か所、浄土ヶ浜レストハウス1か所、シャワー棟等3か所）と観光施設が36か所（シートピアなあど、たろう潮里ステーション、ビーフビレッジ区界、民宿等33か所）被災した（宮古市総務企画部復興推進室2012年：143頁）。なお、震災以降に宮古市で行われた主要なイベントは文末の一覧表（表3）にまとめてあるので、参照いただきたい。

### 浄土ヶ浜の被災と復興

本論に入る前に宮古のシンボルであり、主要な観光地である浄土ヶ浜について述べておく。浄土ヶ浜は今回の津波で被災し、落石や地盤沈下のため遊歩道が使用できなくなり、観光地として大きな打撃をこうむった（みやこわが町、以下「わが町」413号：26～27頁）。2011年には海水浴場を開けない状況で、浄土ヶ浜海水浴場の他も女遊戸海水浴場、真崎海岸海水浴場、藤の川海水浴場、蛸の浜海水浴

注(1)　紙幅の関係上これ以上は延べないが、より細かくは宮古市の『東日本大震災復興計画』に記されているので、併せてご覧いただきたい【宮古市総務企画部復興推進室2012】。

写真１　休館中のシートピアなあど
2012/09/13　撮影：藤野陽平

場、大須賀海水浴場が開設を中止した（広報１４３号：16頁）。浄土ヶ浜海水浴場が再開されたのは翌２０１２年の夏になって７月21日から８月19日の期間だった。なお、同年７月25日から８月19日には藤の川海水浴場も再開している。また、２０１２年１月24日には砂丘、砂嘴、海浜、島嶼の指定基準により、国の名勝にも指定された（広報１９１号：23頁）。２０１３年７月20日には浄土ヶ浜にスロープの歩道が完成し、観光客にとっての利便性を取り戻しつつある（広報１９３号：18頁）。

こうした中、多くのボランティアが浄土ヶ浜を訪れ、がれきの撤去などに協力したほか、「浄土ヶ浜をきれいにする会」（会長：澤田克司さん）が継続的に活動を行った。この会は浄土ヶ浜の自然を美しく保持することを目的に、浄土ヶ浜周辺の観光施設や市内事業者など32団体によって１９６８年に結成された。本会はゴールデンウイーク前の浄土ヶ浜一斉清掃を毎年行い、７月から８月に宮古市主催で行われる自然公園クリーン作戦にも参加している（広報１６７号：３頁）。２０１４年５月17日（５月16日が岩手観光の日一万人大掃除会）にも本会の主催で浄土ヶ浜大清掃を行い、市民約40人が参加している（わが町４２６号：12頁）。こうした地道な活動が評価されてか、２０１１年５月には本会と陸中海岸国立公園宮古地区集団施設地区運営協議会が、公益財団法人におい・かおり環境協会の「におい・かおり環境賞」を受賞した。授賞理由は「会は浄土ヶ浜を地域一体となり安全かつ安心に利用することができるよう維持管理活動を行っており、東日本大震災後には官民一体で復旧作業を行い、磯の香りを取り戻し、良好なにおい・かおり環境の創出・保全・向上に貢献」したことだという（わが町４０３号：10～11頁）。

２０１２年７月７日午後６時30分から８時30分に浄土ヶ浜「鎮魂の祈り」として供養の活動も行われた。震災で亡くなられた方々の鎮魂と、被災された方々の一日も早い心身の回復と長寿を願い平泉・毛越寺の「延年の舞」と「黒森神楽」が共演した（広報１６５号：17頁）。

**道の駅・みなとオアシス　シートピアなあど**（写真１）

２００５年に開業し、海を表す「シー」とユートピアを掛け合わせたシートピアという愛称で知られる道の駅・みなとオアシス「なあど」（なあどは宮古方言で「いかがですか」の意味）であるが、海沿いにあるために建物の２階半分の高さまで浸水し、深刻な被害を受けた。なあどより提供された資料によれば、隣接したタラソテラピーの施設は解体され、施設周辺は50㌢地盤沈下した。

地震発生時には揺れが落ち着くのを待ち、来場者の誘導をし、防災無線等で情報を収集、来場者が全員避難したことを確認し、従業員は近辺の高台にある宮古漁協ビルへ避難した。最大波が到達してからは漁協ビル裏の大杉神社へと移動し、地元住民に誘導されて避難所へ移動した。

その後の取り組みとして、２０１１年６月16日、仮設住宅への移動販売をスタートさせ、同年８月には市場食堂の営業再開、翌２０１２年３月24日には仮設店舗にて営業を再開させた。２０１３年７月６日には２年４か月ぶりにリニューアルオープンを迎え、シートピアなあどオープニングセレモニーが開かれた。山本市長は「観光都市のシンボルとして全国にアピールしていく」とあいさつし、セレモニーには関係者１３０人が参列した。イベントでは野外広場のステージで山口太鼓の演奏、民謡、屋台でｓｅａ級グルメグランプリを受賞した浄土ヶ浜旅館の「あんかけウニ飯」などが販売された（わが町４１６号：15頁、広報１８９号：12頁、１９１号：24頁）。

写真２　マリンハウス内部　壁一面に当時の応援メッセージが残されている
2015/05/06　撮影：藤野陽平

２０１３年11月２～４日にはなあど創業10周年祭がおこなわれ、オープンセレモニー、サンマ焼きお振る舞い、「みやごのひっつみ」お振る舞い（２日）、産直収穫祭（３日）、小田代直子ショー（４日）、海のソフトクリームの特別価格での販売、屋台出店、せんべい焼き体験、抽選会（２～４日）、みやごのひっつみ販売（３～４日）といったイベントが行われた。

**浄土ヶ浜マリンハウス**

被災し一時営業できなかったが、２０１１年６月には仮設売店と青の洞窟探検の営業を再開した。窓に打ち付けられたコンパネは応援メッセージ（写真２）で埋めつくされた（わが町３９４号：４～５頁）。また、ミュージシャンのＲＹＯＳＵＫＥさんが、仲間のロックバンド14組に呼びかけ、合同で出したＣＤ『ｈｏｐｅ』の売り上げでスワンボート２隻が寄贈された。このスワンボートは「希望のスワン」と名付けられた。マリンハウスには震災前15隻のスワンボートがあったのだが、そのうち13隻が被災した。無事残った２隻、震災後補助金で購入した４隻と合わせてこれで８隻となった（広報１８９号：26頁）。

**みやこ浄土ヶ浜遊覧船**

県北グループが運営するみやこ浄土ヶ浜遊覧船であるが、震災後しばらく運航ができない状態が続いていたものの、２０１１年７月16日に運航を再開させた。同日、青の洞窟さっぱ船遊覧、浄土ヶ浜を周回するボンネットバス「浄土ヶ浜号」の運航も開始した。遊覧船は震災のため２隻が廃船となったが、残った１隻での再開となった（広報１４３号：20頁）。この１隻の船が残ったのには船長の坂本繁行さんがとった行動が大きい。坂本さんは３月11日、団体客の予約が入っていて、20人ほどを乗せた運航を終え事務所に戻ろうとしたときに地震にあう。大きな揺れのため津波が来ると確信した坂本さんは機関長と甲板員の３人で引き波が起きているなか、船を閉伊崎の沖から北へと沖に向けて出した。船を出して30分ほどで大きな津波がきたが、その後無線で会社と連絡を取りながら海上で３日過ごし、津波注意報が解除された13日午後に港に戻った（広報１４５号：３頁）。

## １　宮古観光文化交流協会

宮古にはイベントなど誘客活動を行っている一般社団法人宮古観光文化交流協会（以下、観光協会）があり、観光関連の業務を行っている[注(2)]。２０１５年２月19日宮古駅前総合観光案内所にて「全国のみなさんに来ていただいて、気にかけていただいて、何とか進められている。早く元に戻りたいと思っています」と述べる事務局長の**山口惣一さん**からお話を伺った。観光協会は主にイベント誘客事業を行っていて、会員は２００ほどの市内観光関係の業者である。年１回の総会、年２～３回の理事会を行う。イベントの運営とＰＲ、浄土ヶ浜レストハウス、観光案内所、学ぶ防災の運営も担っている。

山口さんの説明では宮古の観光は浄土ヶ浜を売りにして、その周りの景観も見せるという形をとっており、観光として売りやすいスタイルだという。震災以降ではＮＨＫの朝の連続テレビ小説「あまちゃん」人気や復興関係で人は来ている。残念なこととして宮古の観光の売りでもある海鮮を中心とした美食であるが、一番おいしい時期である１月から３月には来客が少ないことを挙げている。

---

注(2)　広報１５９号：３頁に観光協会の特集がある。併せて参照いただきたい。

写真３　浄土ヶ浜まつり
2015/05/04　撮影：藤野陽平

被災してから、半年ほどは観光どころではなかった。浄土ヶ浜のレストハウスも被災して営業できず、海水浴もできない。「何をしていいのかわからない状態だった」と山口さん。そのため、観光協会としては誘客よりも市からの委託でキャラバン隊を組んで、首都圏をめぐった。被災した企業が立ち直っていけるように市外に販売する仕事だった。岩手県内、首都圏、関西へと商店から商品を預かって持っていった。少しずつでもしっかり進まなくてはいけないというアピールも兼ねていた。この仕事は２年目くらいまで行った。その他にも宮古や岩手県のＰＲ活動に同行することもあった。

被災した後、できることから取り組もうと４月の浄土ヶ浜まつりから再開した。物品は流されたので、郷土芸能の上演や鍋を作ったりした。しかし、まだがれきがつみあがっている頃で、お客はほとんど来なかった。

### (1)　イベントの一例として　浄土ヶ浜まつり

観光協会はいくつかのイベントを主催している。ゴールデンウイーク中の浄土ヶ浜まつり（写真３）、夏の浄土ヶ浜サマーフェスタ（ビーチサンダル飛ばし、浴衣コンテスト、シーカヤック、スイカ割り等）、秋の浄土ヶ浜さんままつり（別名さんまフェスタ、千人に炭火で焼いたさんまをふるまう）と浄土ヶ浜サーモンフェスタ（以前は津軽石川でつかみ取りをしていたが、震災後川の環境が戻っていないので、別の場所で行うようになった。２０１５年からは「元祖」宮古鮭まつりと題して津軽石川河川敷で行われるようになった）、２月の毛ガニまつり（写真４）といった具合である。ここではそのイベントとして２０１５年４月29日と５月３～６日におこなわれた浄土ヶ浜まつりを紹介したい。

初日である４月29日９時30分から「賽の河原の地蔵尊と観光客の安全祈願祭」として慰霊と安全祈願が執り行われた。参加したのは50人強の参加者とスタッフ、参加者は関係者で、ゴールデンウイークに入っているものの、とても寒い日であったため観光客は散見される程度であった。その他メディア関係としてＩＢＣ岩手、岩手日報、広報みやこ等だった。

全員が常安寺の住職を合掌で迎え祈願祭が始められる。その後７名の蘭煎会の会員による献茶の後、海難者、東日本大震災没故者のための読経、献花、焼香が行われた。

10時30分からは浄土ヶ浜ウォーキング（写真５）が行われた。参加者は30名とスタッフで、スタッフには「もてなし隊」の25名も加わっていた。受付、点呼、スタッフの紹介、ラジオ体操の後、出発し、コースは以下の通りである。

写真４　毛ガニまつり
2014/02/22　撮影：藤野陽平

ビジターセンター前出発→急な階段→臼木山→宮古港海戦記念碑→トイレ→県立水産科学館→道路を渡って→森林浴の道→水神社→砥石浜→レストハウス前

このとき、配布資料として「浄土ヶ浜フィールドガイド」という地図が渡され、その中の「お花めぐりコース」を歩いて散策した。この浄土ヶ浜ウォーキングは浄土ヶ浜をうたっているが、浜が見えるのは最後だけで基本

的に山道を歩くコースになっている。これについてスタッフの1人は「宮古は海だけではないことも知ってもらいたい」という点を挙げていた。

目的地であるレストハウスまで全員がたどり着いたのちに、おにぎり2個と豚汁がふるまわれ、レストハウスの食堂、うみねこ亭で談笑しながら舌鼓をうつ。このとき話をした参加者のお一人は「このウォーキングには何回か参加したことがある。浄土ヶ浜にはこの時にだけくる。1年ぶりだ」とのことであった。

写真5　浄土ヶ浜ウォーキング
2015/04/29　撮影：藤野陽平

4月30日、5月1～2日を挟んでゴールデンウイーク本番を迎える5月3日からは、浄土ヶ浜まつりも盛り上がりを見せる。この日は友愛の会のステージ、シーカヤック体験、宮古蘭煎会による緑茶のふるまい、ラーメン早食い大会などが行われた。「友愛の会」（代表、金澤みちこさん、友愛の店主で、翌日ステージをする金澤未咲さんの母にあたる）は大通りの「友愛」という店舗の常連さんたちの会で、浄土ヶ浜まつりには何十年も出演している。全員で30人ほどいるが、今年は20人ほどが出演した。日々お店のカラオケで常に練習していて、画面を見ないでも歌えるように厳しい指導を受けている。

シーカヤック体験は参加料が保険代として1人500円、1回につき8人が体験できる。1人乗りと2人乗りの2種類あり、1人乗りは小学校高学年以上、それ以下の子供は2人乗りで保護者の同乗が必要である。10分間ほど説明をうける。まずは、ライフジャケットのつけ方で、ライフジャケットはフリーサイズなので、ベルトを止める。次にパドルの持ち方。向きは文字が読めるようにもち、肘は直角になるようにする。漕ぎ方は手でまわさず、肩を使い、バックの時はその逆の動きをする。曲がる時には曲がる方向のパドルを水につける。反対のパドルはできるだけ外側を漕ぐ。乗り方は重心を低くして片足ごとに乗り込んで、指導員に引いてもらい海へ漕ぎ出す。その後は各自自由にシーカヤックを楽しむ。参加者の中には遠くは長野、名古屋、東京、青森からの人もいるが、宮古の人は少数であった。

宮古蘭煎会は本家が仙台にあり、その下の釜石支部に属している。宮古では磯鶏公民館で、隔週で稽古をしている。浄土ヶ浜まつりには20年ほど前から出ていたが、震災後は今回がはじめてで、当日は13人が参加したが、普段のお稽古は20人ほどが来ている。

ラーメン早食い大会はステージ上でウニを練りこんだウニラーメンと、ウニの炊き込みご飯で作ったおにぎり「うにぎり」を食べきる早さを競うものである。先着順に申し込むもので予選等があるわけでもなく、テレビ番組に登場するような大食い、早食いの猛者達がしのぎを削るものではなく、一般の人が急いで食事をしているのを見学するような、のどかな雰囲気であった。日本人だけではなく、台湾の台北からの参加者もいた。夫婦で来宮したとのことで、21日に来日し、26日には青森に行き、車で沿岸を見ながら南下、5日に成田から帰国するという。宮古にはホテルに2泊する。本当は日本の雰囲気がする民宿を探したのだが、空室がなかった。震災後4回目の来日だが、宮古ははじめてだという。

翌5月4日には芸能まつり（第1部10時30分～12時00分　第2部13時00分～14時00分）と小田代直子さん、金澤未咲さんによるステージショーが行われる。芸能まつりは1963年に設立された宮古市芸能団体連合会によるもので、民謡、三味線、太鼓、踊り、新舞踊などの9団体（民謡越田会、民謡保存会、絃友会、葵の会、民謡うみねこ会、新舞陸中会、民謡愛好会、かすみ会、扇翔会）の約90人が参加した。これらの団体は別々に練習しているが、合同で発表することが多く、浄土ヶ浜まつりにはレストハウスが再オープンして以来参加しているそうだ。

写真6　金澤未咲さんのステージショー、観客との触れ合いが大切にされる
2015/05/04　撮影：藤野陽平

第Ⅰ部は1、そんでこ節　越田会。2、チャグチャグ馬コ　保存会。3、鍬ケ崎浜唄　紘友会。4、大器晩成　葵の会。5、秋田大黒舞　うみねこ会。6、峠越え　新舞陸中会。7、人生音頭　愛好会。8、男　かすみ会。9、佃の渡し　扇翔会。10、酒屋もとすり唄　保存会。11、南部俵積唄　保存会。12、ドンパン節　弦友会。13、川の流れのように　葵の会。14、鍬ケ崎浜唄　うみねこ会。15、秋月愛好会。17、黒髪しぐれ　かの人　新舞陸中会。16、まりと殿さますみ会。18、高尾山　扇翔会。

第Ⅱ部は19、帆柱起こし音頭　うみねこ会。20、海ぶし　葵の会。21、酒造り祝い唄　紘友会。22、大漁唄い込み　保存会。23、南部よしゃれ節　越田会。24、山　かすみ会。25、白浜音頭　愛好会。26、男橋　扇翔会。27、土佐のかつお船　新舞陸中会。

第Ⅰ部と第Ⅱ部の間に小田代直子さん（12時00分～12時30分）と金澤未咲さん（12時30分～13時00分）のコンサートが行われた。お二人とも宮古出身の歌手で宮古市の観光大使も務めている。地元、三陸の情景を歌い上げるが、その卓越した歌声とは裏腹に、地元の人との触れ合いが大切にされ、和やかなムードのステージとなる（写真6）。

3日は歌謡ショー、4日は芸能と対象年齢層が高めの浄土ヶ浜まつりであったが、5月5日はこどもの日で、趣向を変えて妖怪ウォッチ体操コンテスト、MDSとMOPSによるダンスといった子供から若者を対象としたプログラムが組まれる。妖怪ウォッチ体操コンテストは人気アニメの主題歌「ようかい体操第一」のダンスのコンテストで、主たる対象は小学生。表情、リズム、衣装を5段階で2名の審査員による審査が行われ、賞品はおやつの詰め合わせ、参加賞はうみねこ亭のソフトクリームである。主に市内の23名（盛岡、仙台からも2名ずつ）が参加した。

MDSのダンスステージであるが、MDSとはメッカ・ダンス・スクールのことで、代表の中野猛さんが市内で経営していたメッカという店の名前が由来となっている。この店は被災したために、現在移転しバベルという名前に代わっている。ここでダンススクールも行われているのだが、生徒は小学校1年生から30代まで60人ほど、多くは宮古の生徒で、当日は50人ほどが参加した。

また、MOPS（モップス）とは事務局で宮古小学校の教員の石澤綾子さんによれば「みんなでおどっぺす」のことだという。宮古市内の小学校の児童を対象としたダンスサークルで、踊りたければ中学生も受け入れていて、また、弟、妹も来ているので、幼稚園児、保育園児も参加している。昨年度は60～100人くらいが参加しており、2015年度は募集中だという。練習日は不定期だが宮古小学校で練習している。スタッフのほどんどが小学校の教諭で震災後に活動をはじめて5年目になるという。地元のお祭りではお年寄りの手踊りがあるが、子供ができるものが無いというのが、始めるきっかけになった。浄土ヶ浜まつりには震災後の再開以来、参加していて、当日は27人が来た。

### (2) 学ぶ防災

次に震災後観光協会が取り組んだ注目すべき動きとして、学ぶ防災（写真7）を紹介したい。2012年4月1日から始まったこの活動は、パンフレットによれば「私達は災禍の記録や後世への教訓を伝え、防災意識を高めていただく事を目的として、御案内致します。」という目的のもと、田老地区の「実際の津波の状況、避難の大切さ、過去の津波の歴史、まちづくりの進展状況などを、現地で説明するほか、津波が4階まで押し寄せ大きく被災したたろう観光ホテルを案内し、そこ

写真７　学ぶ防災　田老防潮堤にて
2014/10/31　撮影：藤野陽平

から撮影された津波来襲のＤＶＤを上映する」。

コースは主に２種類あり、防潮堤とＤＶＤ鑑賞（所要時間30～60分）と防災エコツアー体験コース（１２０分）で、受付時間は４月から10月が９時から16時30分、11月から３月は９時から15時30分となっている。参加費は防潮堤とＤＶＤ鑑賞で一組１時間で４千円。エコツアーは１万円。復興支援金として受け取り、観光ホテルの維持にあてている。当初のＤＶＤ鑑賞はたろう観光ホテル（写真８）[注(3)]の社長が当時観光ホテルの上から撮影した動画で、マスコミには出ていないオリジナルのものを撮影した場所で見学するようにしていた。その後はたろう観光ホテルが津波遺産保存整備事業の１つとして保存されることになり、立ち入りが制限され宮古市田老総合事務所近くの会場で放映するようになった（わが町４１２号：26頁）。

この学ぶ防災は、利用者が２０１２年４月以来、２０１６年８月現在で11万１千１２１人（２０１２年度　１万８千９２８人、２０１３年度　３万１千３９２人、２０１４年度　２万８千０６７人、２０１５年度１万９千６０８人、２０１６年度〈８月まで〉１万３千１２６人）と目を見張るものがある。冒頭に紹介したように宮古を訪れた観光客数が、33万６千４６４人（２０１１年）、73万９千５８０人（２０１２年）、１１０万６千６０６人（２０１３年）程度だったことを考えると、小さい数字ではないことがわかる。「団体から少人数、教育旅行の学生など多くの予約がほぼ毎日入り、利用者は九州、関東、北海道などと全国各地や、海外からも訪れている（わが町４２１号：30～31頁）。各団体の視察などにも利用され、例えば２０１３年６月17日には「３・11震災孤児遺児文化・スポーツ支援機構」が学ぶ防災に参加した（わが町４１５号：14頁）。ただし、宮古の児童生徒は来ていない。実際に被災した子がいるので、リアルすぎ、まだ早すぎるという反応だという。

これほど多くの人に利用されている学ぶ防災であるが、２０１４年10月時点でスタッフは６人（うち１名は研修中で、実質５人）だった[注(4)]。１人１万から２万人程度の担当をしてきたことになる。同時に多くの参加者があることもあり、その場合には３班に分けてＤＶＤスタート班、防潮堤スタート班、駅スタート班としてまわしている。担当しているのはもともとガイドの経験のない人たちで、苦労が絶えない。以前は観光ホテルでＤＶＤを見せていたので、１日に何度となく上り下りをしなくてはならず、腰を痛めてしまうこともあった。こうした経験について当初からガイドとして関わってきた**佐々木純子さん**から２０１４年10月31日の午前10時から学ぶ防災の会場にて話を伺った。

佐々木さんは元リース会社の社員だった。当時は２５０件を担当

写真８　たろう観光ホテル
2012/09/14　撮影：藤野陽平

注(3)　１９６８年開業、６階建て延べ床面積２千３９１平方メートル、４階まで被災した。

注(4)　学ぶ防災のスタッフは観光協会に単年度契約で臨時雇用という形で雇用されている。

するほどだったのが、震災で解雇となる。彼女が学ぶ防災に関わるようになった経緯は以下の通りである。このイベントは当初、ＮＰＯ法人「立ち上がるぞ宮古田老」が行っていたが、規模が大きくなり賄いきれず、上述の山口惣一観光協会事務局長と相談し、２０１２年４月から観光協会の事業として「学ぶ防災」が始まった。佐々木さんはこのころから関わることとなった。しかし、だれも経験したことのない災害のガイドである。当然、原稿やマニュアルはなく、試行錯誤しながら作り上げていった。当初は研究者や特に関心のある人達が参加していたのだが、どんどん広がってこういう形になってきた。

最初は防潮堤の案内だけをしていたが、観光ホテルの社長の好意でＤＶＤを借りることができ、これをコースの中にとりいれた。参加者数は減ってきているが、件数は増えている。ツアーでの参加は減っているが、一度ツアーで参加した人がリピーターとしてもう一度来ている。そして、そのリピーターがさらに新しい人を連れてくるという動きがでている。最初は災害を観光化することへの反発もあったが、復興に向かって頑張っている姿を見たいというお客さんがたくさんやってきているので、感じ方が変わってきているのを感じている。

このように充実している学ぶ防災の活動であるが、佐々木さんはいくつかの葛藤を抱えてもいる。それは第1に自分がこの仕事にふさわしいのだろうか。未熟者の私がやることなのだろうかという点、第2に被災した人たちは「学ぶ防災」についてどう思っているのだろうかという点、第3にガイド中に感情がおさえきれなくなることがある点であるという。3番目の件はＤＶＤを見ると1年くらいまでは涙が止まらず動悸もしていた。観光客を連れてきたある添乗員さんに「泣いていると話が止まってしまうからよくない」と批判され、「ガーンときた」とショックだったと振り返る。別の人には「話が長い、お客が飽きる。どうしてこんなに長い事立たせておくのだ」と言われたこともあった。また、徐々に慣れてきて笑って話せる自分にも微妙な感情を持つことがある。こうした葛藤は佐々木さん1人が抱えているのではなく、先に紹介した観光協会の事務局長山口さんも学ぶ防災に対して以下のように語っている。

「これは観光なのだろうか。被災した地域である。被災した場所を見てもらうという売り方でいいのだろうかという葛藤があった。正直すごく迷ったのが実状だった。実際にかなりの人が被害を受けた。しかし、だからこそそれを語り継がなくてはいけないという思いが勝ってこの形になった。3年間続けてきたが、なんとかやって来られたという思いだ。観光客が増えることよりも防災意識が高まればというのが願いだ。」

一方でやっていてよかったということもある。それは人との出会いだ。これで続けていこうと思うことができる。また問題点として田老は場所が遠い点を挙げている。宮古にも泊まるところが増えてきているので、修学旅行で使ってもらうことが増えているが、当初は花巻や盛岡に泊まって、田老まで来て参加するのは難しかった。

佐々木さんは「ここまで来たのだから、頑張りたい。思い入れがあるので、学ぶ防災が今後どうなるのか見届けたい。将来的には田老で海藻を食べたり、買ったり、採ったりもできる複合的な施設としたい。難しいと思うが観光の町になってほしいと思っている」と述べてくれた。

### (3) 浄土ヶ浜レストハウス

観光協会が運営する特筆すべき事業として浄土ヶ浜レストハウス（以下、レストハウス、写真9）がある。レストハウスは２０１０年のゴールデンウイークの4月29日に開業した。つまり新装オープンしたばかりで被災したことになる。実に不運だったが、２０１１年の6月には営業を再開させ、7月までには重機で浄土ヶ浜を復旧させ、ダイバーが海底のがれきの撤去を行った。7月21日にはオープニングセレモニー（10時00分～11時00分）があり、テープカットや黒森神楽の公演が行われた。同日山本市長は「浄土ヶ浜地区の観光拠点の復活だけではなく、

写真９　浄土ヶ浜レストハウス、２階の屋根近くまで浸水した

2015/02/16　撮影：藤野陽平

観光都市としての本市の復興を全国にアピールしていきたい」とあいさつし、併せて同日、浄土ヶ浜感謝祭（11時00分～15時00分）として、太鼓や歌謡ショー、餅つき、海鮮丼格安販売などもあった（わが町３９４号：30～31頁、広報１６６号：６頁、１６９号：24頁）。

その後も宮古市のサーモンくん、みやこちゃん、浄土ヶ浜のウミネコをデザインしたウミネコちゃんと写真が撮れる２０１３年６月にアクリル製１・８×１・８メートルの「顔出し看板」を設置したり（わが町４１６号：18頁）、食堂の名称を２０１４年７月19日から８月31日に公募し（応募総数２８８点）、「浜処うみねこ亭」とし[注(5)]、12月６日にお披露目会が行われるなど活発にイベントなどを行っている（広報２２５号：13頁）。

**震災当日と被災状況**

レストハウスの被災状況や復興に向けた動きを営業部次長の**島崎準さん**から２０１５年２月23日にレストハウスにてお話を伺った。

島崎さんは震災当日もレストハウスで勤務していた。今までに感じたことのない揺れだったが、地震での被害はなく、皿１枚落ちなかった。被害は津波の引き波によるもので、台所や机などが流されて何も残らなかったことだった。島崎さんが後日、自転車で見回っていたら、藤の川あたりにレストハウスの椅子が１つ流れ着いているのを見つけたこともあり、「こんなところまで流されたのか」と感じた。当時は被害よりも避難が優先された。揺れが大きかったので津波の有無を確認する以前に全員第３駐車場へ移動してもらい、職員も必要最小限のものをもって避難した。その時に海を見たところ、波が引いていたので、これは津波が来ると警報が出る以前にわかった。その時は感じたことのない異様な静けさだったといい、何の音もせず、ウミネコの声すらしなかったが、その後突然、木をなぎ倒す音がしてそれと共に津波が来た。

３月の浄土ヶ浜は閑散期なので、客の誘導から避難まで20分で終えることができスムーズに行えた。レストハウスの時計は３時21分で止まっていたので、津波が来たのは地震の後35分後のことで、避難してから15分しか残っていなかった。引き波を見たので、逃げなければいけないことは明白だった。鍬ヶ崎の方では家が波に引っ張られ、大橋の上からは完全に水が引いていたのを目にした。

当時の副支配人が降りて様子を見に行こうとしたが、カーブを曲がったところで浄土ヶ浜が見え、岩の３分の２ほどが水に沈んでいたので、あきらめて引き返してきた。レストハウスも１階くらいの被害で収まってくれたらいいと思っていたが、翌日になって職員３人（支配人、副支配人、島崎さん）で見に来てみると、現実にはすべて呑み込まれていた。

１週間ほど経って片づけをはじめた。その時の心境を「復旧するかどうか、今後どうなるか、そういうことはわからない中、片付けだけははじめた。どうなるのか誰もわからなかった。」と振り返る。ただし、片付けも浄土ヶ浜は海がきれいでヘドロもなかったため、大木を撤去する程度ですんだ。レストハウスのためにボランティアが千人ほど来てくれたが、あまりすることがなかった。浄土ヶ浜の景観は引き波で何かがぶつかって傷が付いた程度で大きくは変わっていない。

---

注(5) この店名公募にはインターネットは使用せず、来店した人に応募してもらったという。これには実際に来てくれた人に考えてほしいという意図があったという。

## 営業再開から復興へ

レストハウスはすぐに営業再開することが決定された。しかし、建物が被災したために改修が終わるまではプレハブでの運営となった。その間はお手洗い、土産物の販売、休憩所の提供のみで、食事はできなかった。浄土ヶ浜まつりも２０１１年は間に合わず、翌２０１２年からプレハブのレストハウスで再開させた。２０１１年はレストハウスとして何もできなかった。夏には海水浴場もオープンしていないので、テントを出して軽食を出したが、何か事故があっても自己責任でという形をとらざるを得なかった。

しかし、営業再開後のレストハウスの動きは活発だった。浄土ヶ浜カレー（写真10）や季節のラーメンなど、地域の食材をもちいた特色のあるメニューを並べ、うみねこ亭の食事には力を入れている。全国各地にある観光地に附設した施設は食事をしても安くなくて、しかもおいしいものが出てこないというイメージが強い。しかし、「安くて美味しいものが出ると思ってほしい」と島崎さんが言うように、浄土ヶ浜のレストハウスはそういったイメージを打ち崩すことを目指している。しかも、被災後メニューのレパートリーを増やしており、単に元に戻す復旧ではなく、さらに先に進む復興を体現している。島崎さんはこのように語る。

写真 10　浄土ヶ浜を模した浄土ヶ浜カレー
2015/05/04　撮影：藤野陽平

「はじめは元に戻すのだと復旧するための努力だった。しかし、その後は被災地を観光してもらっているようではだめだと思った。徐々に被災地が観光地になっていくのだろうが、そうではなくて忘れないようにしなくてはいけない。それでいて先に進む。被災ということをふまえて自分達も甘えないように。もうずいぶん時間がたったので、被災のことを言わなくていいというようなことを言われることもある。しかし、それを踏まえて自分達でやっていく。自分達がやったのだという自信がないとなあなあになってしまう。いつまでも被災したところという看板に甘えてはいられない。『なんだ、あの頃とかわってないではないか』とはいわれたくないのだ。」

食事だけではなく、お土産品にも力を入れている。代表的な存在が「たつっと浜だれ」シリーズ（写真11）であろう。被災後1年ほどたった時に新しいお土産を作ろうと生まれた商品である。お菓子などの加工品は味が決まっていて独自性が出せないが、調味料なら消費者がアレンジできるので独自の味が表現でき、宮古の独自性も出せるというアイディアだ。また、調味料なので、おせんべいの味付けに使うなど、いろいろなものとコラボレーションができるのも魅力だという。

写真 11　たつっとシリーズ
2015/02/24　撮影：藤野陽平

売れ行きも好調で、レストハウスだけで２０１４年度1万5千本販売した。商品名に使っている「たつっと」とは雨やしずくが「たつたつっ」と落ちる音の宮古方言からとっている。濃縮15倍は普通の調味料からすれば濃いが、お土産物なので少量でかさばらず、重くないものがよいと考え、こうなった。「宮古の人にも食べてもらって、『宮古の味だべ』と思ってもらい、宮古市民と一緒に全国に売っていきたい。レストハウス監修の「たつっと浜だれ」を

認めてもらえれば、それはレストハウスの食事を認めてもらったことと同じこと。宮古の人達にも好評で、お土産に持っていったらまた買ってきてと言われたという声をきく。これこそパートナーになるということだろう。宮古の外から来た人はもちろん、宮古の人ともパートナーになる。ソトから広がるのと、ウチから広がるのでは意味が違う。ウチの人には基礎がある。ウチの人に受け入れてもらえれば閑散期もなくなる」という。

「あまちゃん」ブームや三陸鉄道の全線開通等に加えて、こうした努力の結果だろうか、インタビュー時の２０１４年度のレストハウスの来客数は、それまでで一番客入りが良かったという。冒頭で紹介したように来宮観光客数は震災後、激減しているが、レストハウスに関しては震災前よりも増えている。団体客が多く、２０１４年度はツアー客だけで5万5千人が訪問し、これに一般客が加わる。

「被災したからこそメディアによく取り上げてもらい、広く知ってもらうことができた。実際に被災した人には言いづらいが、何にでもいい面と悪い面がある。多くの人に来てもらってそれをリピーターになってもらうためには今が勝負時だ。いい意味で観光施設っぽくない観光施設にしたい。こういう場所は高くて美味しくない、他の選択肢がないからしょうがなく利用するというイメージが強いが、そういうものを打破したい。だから、食にこだわる。美味しいものを食べてもらい、そのうえに浄土ヶ浜があるというイメージ。楽しさの提供をしたい。」

「津波はいずれまた来る。これまでも来ていた。そうした時でも前の住民たちが全力でやったから早く再開できたと思われたい。ここは大切な場所なんだと思ってもらいたい。そういう風に思ってもらえるように頑張っていきたい。」

## 2　三陸鉄道

観光の復興という意味で、交通機関の取り組みを紹介しないわけにはいかないだろう。特に宮古市の場合には三陸鉄道（写真12）が象徴的な存在であり、広く取り上げられている。すでに吉本浩二（２０１２年）の漫画『さんてつ』を皮切りに中井精也（２０１４年）、源明輝（２０１４年）、国松俊英著、間瀬なおかたイラスト（２０１４年）、品川雅彦（２０１４年）、冨手淳（２０１４年）といった書籍が刊行されている。いずれも当時の緊迫した空気を伝える好著である。紙幅の関係上、より詳しくはこれらの書籍に譲り、ここでは概略を述べるにとどめる。

２０１５年2月20日に『線路はつながった　―三陸鉄道復興の始発駅』の著者でもあり、漫画『さんてつ』にも登場する三陸鉄道旅客サービス部部長の**冨手淳さん**（１９６１年生）に、三陸鉄道事務所にてお話を伺った。ご著書の内容と共に振り返ってみたい。

### (1)　被災から全線復旧

地震の直後、大きな揺れから津波が来ることを確信した冨手さんは駅員に「津波が来るから避難！」と叫んだ。その後、社長から一般社員と乗客は指定されている宮古小学校へ避難するという指示が出る。幹部社員は本社に残っていたが、15時45分ごろ宮古駅すぐの跨線橋「出会い橋」へと避難した。日が暮れてきたが停電で電気が使えない。そこで、駅に停車中だった車両のエンジンをかけ、本社のホワイトボードを持ち込み、急きょ「災害対策本部」とした（冨手２０１４年：8～21頁）。すぐに社員の安否確認が行われ、15日までに全社員の無事が確認された（冨手２０１４年：25頁）。

写真 12　三陸鉄道宮古駅
2015/12/06　撮影：藤野陽平

津波警報が津波注意報へと

変わった13日、冨手さんは三鉄の社長望月正彦さんとともに現場の視察へむかう。沿岸部の道は通行止めであったが、山菜取りが趣味の社長は林道を熟知しており、迂回しながら各駅を確認していった。そこで2人の目の前に現れたのは変わり果てた沿岸の姿であった。田老では線路を道路代わりに歩く人々を目の当たりにし、また田野畑では三鉄はいつ動くのだという声をかけられた。このことから、望月さんは「とにかく列車を走らせよう。一刻も早く走らせよう」と冨手さんに語った（冨手２０１４年：28～39頁）。

本社に戻った望月社長は社員に対して、16日までに列車を動かすこと、そして1週間は運賃を無料とすることを指示する。実際、5日後の16日には久慈から陸中野田まで運転再開し[注(6)]、9日後の20日には宮古～田老間で、29日には田老～小本間の運行を再開させた。運賃は3月中は無料、4月以降は原則１００円単位の臨時割引運賃（被災証明書持参者は無料）、陸中野田～小本間は県北バスの臨時路線が設定され、平日のみ4往復した（冨手２０１４年：54～57頁、わが町４２６号：21～28頁）。全１０７㌔中、線路の被害は5・6㌔。北リアス線が70か所被災、南リアス線は２４７か所で、営業再開は難しいとみられていた。しかし震災から1か月ほどたった4月18日に、望月社長は3年以内での全線復旧計画案を沿線の市町村長に提示し、復旧させるかどうかの判断を委ねた（冨手２０１４年：62頁）。その結果、全線復旧させるという合意が形成された。

震災後授業の再開にともない、通学で三鉄を利用する乗客が増えてきた。しかし、宮古～小本間には一両しか車両がなく、輸送力が不足してきた。そこで、5月26日から28日に久慈の車両基地から宮古へ2両をトレーラーで陸送した。27日から28日に順次宮古に到着しレールに降ろされた。これで1両だけでは増結ができない他、定期検査時や故障時に営業できなくなってしまう等の問題を解決できた（わが町３９３号：24～25頁、冨手２０１４年：58～59頁）。

その後、２０１２年4月には北リアス線の陸中野田～田野畑間が復旧、２０１３年4月には1日7往復で南リアス線の盛～吉浜間が復旧した。安全確認のため所要時間41～50分の運行で、新型車両36-７００形の運行も始まり、記念乗車券千枚（1枚６８０円）も販売した。

２０１４年4月6日には小本～田野畑間が開通し、全線の運行再開となった。当日は北三陸満喫号が久慈11時15分発、宮古13時15分着で運行、事前申し込みをした48人が乗車した。「あまちゃん」の「大吉駅長」と「吉田副駅長」が参加して、観光協会と共同で実施し、各駅での歓迎の振る舞い等のイベントも行われ、昼食は「うに丼」だった。当日11時25分から宮古駅前で運行再開セレモニーが行われ、望月社長が「ここに運行の再開を宣言する」とあいさつをした。続いて復旧を祝うハローキティの「ＨＵＧしてぎゅ」、物産販売、歌謡ショー等のイベントがあった。さらにクウェート国の支援で8両の新車両が整備されたこともあり、記念式典にはクウェート大使も参加した。女優の藤原紀香さんも参加し、くす玉割りを行った。当日は１９８４年の開通以来の人手となった（わが町４１２号：53頁、４２４号：52頁、４２５号：50頁、４２６号：21～28頁、広報２０７号：18頁、２０９号：1～2、24頁）[注(7)]。

### (2) 復興に向けた取り組み

三鉄は震災後、通常の運行の他に様々な試みを行ってきた。ここではそのうちのいくつかを紹介したい。

**フロントライン研修**（http://www.sanrikutetsudou.com/?p=263）

２０１１年5月からフロントライン研修として、被災地を視察するツアーのコーディネートに取り組んだ。フロントラインには被災地の最前線という意味が込められている。被災地で物見遊山はできないの

注(6) 31日までに宮古駅で定期乗車券と回数券の払い戻しも行われた（広報特別号5：6頁）。

注(7) 全国初の第3セクタでの鉄道として１９８４年4月1日に開業した当時の様子は『みやこわが町』誌の４１３号にも特集が組まれている。

で、ツアーではなく、あくまで研修であり、団体の視察、支援のためのものと位置付けられている。県庁のコーディネーターから、「視察したいけれど、どうしたらそれができるかわからない、という人も多いのだから、ツアー業務を商売としてやるべきだ」と、三陸鉄道に打診があり実施することになった。あまり好意的に思っていない人もいるようだが、観光という意味では宮古に人を呼ばなくてはいけないという思いと、当時、会社の一部しか動いていない状態で、社員をどう使うかを考えていた。仕事を作らなくては社員が路頭に迷ってしまう。社長が3年で復旧するという計画を出している以上、それまで社員を解雇するわけにはいかない。なんとか雇い続ける意味合いもあった。そのために価格も割高に設定している。そのかわり社員が全行程に同行して、配布される資料も多い。旅程もオーダーメードなので、利用客の希望に合わせることができる。この点で通常の商品とは異なっている。全線がつながるまでは全行程をバスで回っていた。現在は、希望があれば列車をコースに加えている。２０１２年度までに３００団体、６千６００名以上が参加した。コースの一例（10名以上で１人２万８千円から、20名以上で１人２万５千円から、いずれも昼食２回、朝食、宿泊付き）が冨手さんのご著書（２０１４年：69頁）に掲載されている（冨手２０１４年：67頁）。

１日目　東北新幹線一ノ関駅出発→陸前高田市、奇跡の一本松など→大船渡市、復興商店街屋台村など→釜石市、唐丹町白浜地区→大槌町、旧大槌役場庁舎など→山田町（視察）→宮古市、宿泊

２日目　宮古市街地（視察）→田老地区、防潮堤など→島越駅前（視察）→盛岡駅着

**震災学習列車**（http://www.sanrikutetsudou.com/?p=239）

フロントライン研修の他に、修学旅行を対象とした震災学習列車というツアーを、宮古と田野畑がつながった２０１２年６月より提供し始めた。こちらは比較的安価で１車両５万５千円で利用できる。久慈から田野畑のコースをゆっくり走って説明を聞けるようにしている。教育旅行を想定していたので、中高生が修学旅行で来ている。こちらも社員がガイドを務めている。残念ながら宮古はトンネルが多いので向かない。昨年度は5千人ほどだったのが、今年度は1万人を超えた。修学旅行客がほとんどなので、バスで久慈まで来て、田野畑まで鉄道で移動し、田野畑からバスで帰る（冨手２０１４年：95頁）。

**企画列車**（お座敷列車、レトロ列車など）

三鉄にはお座敷列車「さんりくしおかぜ」（２００２年より運行）、レトロ列車「さんりくしおさい」（２００５年より運行、それ以前は１９９０年に導入された「くろしお号」と「おやしお号」が活躍していた）という車両がある。冬場にはお座敷列車にこたつを設えた「こたつ列車」（２００４年より運行）も登場する。お座敷列車は冬の観光客が減る時期は、利用が少ないことからこたつにしてみたらヒットした。問い合わせが多く、満席が続き、２週間前には予約で埋まってしまうほど好評だ。震災以前は北と南にレトロ列車は一両ずつ配置されていたが、いずれも定期検査で久慈にあったために被災を免れた。

このこたつ列車は震災後２０１２年12月15日から２０１３年３月31日まで２年ぶりの復活を果たした。土日祝日に北リアス線の田野畑～久慈間を久慈12時30分、田野畑13時35分発の一日一往復で運行している。全席指定の予約制で、弁当の販売や「なもみ」のイベントもおこなわれた（わが町４０８号：52頁）。

２０１４年12月６日から２０１５年３月29日までの土曜休日と１月１～12日は毎日運転し、料金は久慈～宮古間で片道１千８５０円、指定席３１０円であった。久慈発12時15分、宮古着13時54分。宮古発15時05分、久慈着16時45分の一日一往復である。こたつ列車乗車証明書、こたつ列車南部せんべいの記念品もセットされ、前年までと同様に途中、「なもみ」も登場し、海鮮弁当（うにあわび弁当、ほたて弁当、うに丼）も予約販売された（わが町４３２号）。

お座敷列車とレトロ列車は夏から秋の運行を行っている。２０１４年

のお座敷列車は4月26日から29日と5月3日から6日の毎日、5月10日から6月29日の土曜休日、7月26日から8月7日の毎日、8月23日から10月13日までの土曜休日に運行され、久慈発12時15分、宮古着13時54分。宮古発15時05分、久慈着16時45分の一往復である。指定料金は３１０円で、一般車両は自由席となる。うに丼、うにあわび弁当、ほたて弁当の予約販売や記念乗車証明書の発行、グッズ販売、海女スタイルのアテンダントの車窓案内も行われる。レトロ列車は4月26日から29日と5月3日から6日の毎日、5月10日から6月29日の土曜休日、7月26日から8月7日までの毎日、8月23日から11月30日までの土曜休日で、久慈発10時30分、宮古着12時10分。宮古発13時15分、久慈着14時49分の全席自由席となる（わが町４２７号：53頁、冨手２０１４年：１１９、１３３頁）。

このお座敷列車「さんりくしおかぜ」は、車両が古くなりリニューアル改造を考えていた頃に震災が起きた。その時にクウェートから原油を日本政府に送り、換金して支援に使うようにとの申し出があった。換金してできた資金を赤十字が、被災三県に配分、岩手県は三陸鉄道車両の更新分にその一部を配分。8両が新製され、そのうちの1両は新お座敷列車「さんりくはまかぜ」となった。こうした車両はイベントにも使用されている。２０１３年の1月1日には初日の出号としてレトロ列車が走った。6時10分に久慈駅を出発し、野田玉川駅で初日の出を遥拝、普代駅で下車し、バスで鵜鳥神社へ初詣にいき、9時36分に普代駅にて再び乗車、10時06分に久慈駅に帰着するというコースだった。会費は大人が5千３００円、子供が2千５４０円、定員45名の予約制で、記念乗車証明書、福袋、お神酒、折詰、御札のプレゼントも行われた（わが町４０９号：52頁）。２０１４年4月24日には震災後初の花見カキ列車に新お座敷列車が使われた。宮古駅ホームで炭火焼されたカキを2つうけとり、新お座敷列車「さんりくはまかぜ」に乗り込み車内で食べるという企画だった（広報２１０号：６頁）。

### (3) 寄せられた支援

震災後5日で運行を再開した三鉄は宮古市だけにとどまらず、東北全体の復興のシンボル的存在ともなっていく。それは大ヒットしたＮＨＫの連続テレビ小説「あまちゃん」に登場する「北鉄」のモデルとなったことにも象徴的に表れている。冨手さんも「あまちゃん効果」について「はんぱじゃなかった」と振り返る（冨手２０１４年：１６２頁）[注(8)]。このように注目を集めた三陸鉄道には多くの支援が寄せられた。「支援してくれた企業は数限りない」と冨手さんがいうように、その全てを紹介することはできないが、代表的なものを紹介しておきたい。

**ヘッドマークオーナー募集**

三陸鉄道復旧支援のため、1年間広告料30万で60×60（センチメートル）のヘッドマークに自由にデザインをすることができるもの。このオーナーの第一号は芸能人の杉良太郎さんだった。これは２０１１年6月29日に行われた「がんばろう！三鉄の集い」に、一日駅長として参加した杉さんから何か支援ができないかとの申し出があり、三陸鉄道側から提案し、杉さんが快諾した（わが町３９３号：48頁、冨手２０１４年：72～74頁）。

**乗車券を購入してくれる人**

こうした支援は企業だけではなく、個人によるものも数多く寄せられた。顕著なものとして明治学院大学教授の原武史氏が宮古～小本間の乗車券千枚、60枚分の購入もあった（冨手２０１４年：66頁）。

**復興祈願レール**

復興祈願レールとして２０１１年8月に島の越～田野畑間、宮古起点34（キロ）７４０（メートル）付近の流されたレールを切り分けて、10（センチ）のものを5万円、5（センチ）のものを3万円（ともに限定１００個、木製の台座、シ

---

注(8) ただし、当時は北リアス線全線開通の前であったため、久慈から田野畑間の乗車であり、宮古まで足を延ばす人はそれほど多くはなかったようだ。もし、当時繋がっていたら、宮古にはもっと多くの人が訪れていただろう。

リアルナンバー月のメモリアルプレート付き）で販売したところ、新聞各社などに取り上げられ、注文が殺到し即日完売した。好評だったので10月には南リアス線盛～陸前赤崎間のレールで４００個限定販売し、これも完売した（冨手２０１４年：75～77頁）。

**てをつな号**

２０１２年４月１日から「てをつな号」という、世界的な人気キャラクターが手をつないで並んでいるラッピングを施した車両が、宮古～小本間、久慈～田野畑間で１両ずつ運行を始めた。これはＮＨＫのキャラクター「どーもくん」の作家合田経郎さんが呼びかけ、版権者らが無償での使用に賛同し実現した（冨手２０１４年：98～１０１頁）。

**ネスレ日本**

チョコレート菓子「キットカット」を販売するネスレ日本は、２０１２年以降「キット、ずっとプロジェクト」として、三鉄を支援している。ラッピング車両「キット、ずっと号」（写真13）のほか、「三陸鉄道キットDreams」という宮古市を本拠地とするアマチュア野球チームも設立している。田老野球場再建にあわせたクォリティ・オブ・ライフ向上に向けた支援の一環である。２０１４年11月６日には球団設立記者会見があり、翌７日に本球団のＧＭ（ゼネラルマネジャー）をつとめるシアトルマリナーズの岩隈久志投手が、被災した田老野球場などを視察した（わが町４３２号：20～21頁、広報２２３号：23頁、冨手２０１４年：１０１～１０３頁）。

写真 13　ネスレ日本のラッピング車両
2015/12/06　撮影：藤野陽平

**3　岩手県北バス、岩手県北観光**

鉄道と並び宮古市の公共交通を支えるのがバスであろう。岩手県北バスの宮古営業所所長**佐々木隆文さん**（１９６５年生）から２０１５年４月30日にお話を伺った。佐々木さんは開口一番「おかれている立場を認識して、住民の方に不便をかけないという公共交通の役割を必死に果たしてきた。それに尽きる」と明言した。

**(1)　地震直後**

地震の時には通常業務中で営業所にいたという佐々木さん。現在は防災無線が全車に付いているが、当時は１０６急行以外にはついていなかったので、駅前に行き、これから出発するバスは戻るように指示を出した。３日間ほどはとてもバスを走らせられる状況ではなく、営業できなかった。最初は道路の被害がなかった内陸での運行ということで１０６急行を動かし、その後は随時走れるところから復旧していった。震災前の路線が復旧できたのは１か月ほどたってからで、本数を減らしての運行となった。

当時は全員の従業員が出社できたわけではなかった。最初は歩きや自転車で来られて、家が被災していない人を中心に出社してもらった。ガソリンは自家スタンドがあるのでバスを動かすガソリンは20（キロリットル）ほどあり問題なかった。通常なら３日でなくなってしまう量だが、本数を減らしていたので十分だった。なお、県北バスで宮古営業所は人的物的の被害はなかったが、山田営業所の運転手が殉職した。

再開した運行は車を無くした人たちに歓迎された。これは仮設住宅ができるまで毎日つづけていた。観光の路線よりも最低限の生活路線の維持を優先した。また、ボランティア団体が段取りをして、そこから依頼を受けて運行したボランティアバス、自衛隊が津軽石小学校などの校庭に浴場を開設していたので、避難所から入浴施設までの送迎、ドラへの買い物のため避難所からの送迎をする買い物バスといった取

写真 14　浄土ヶ浜を周遊する電気バス
2015/12/06　撮影：藤野陽平

り組みも行った。

仮設住宅が完成してからは全ての仮設住宅から500㍍以内にバス停があるようにと新しい路線も作った。仮設住宅ができていくにしたがって、徐々に路線ができていき、これは今でも続いている。（例、樫内仮設住宅行、愛宕公園仮設行等）国の特定被災地域公共交通調査事業（http：//wwwtb.mlit.go.jp/tohoku/ks/new%20page/ks-001hisaichi.pdf）の補助金がでた。今後の課題としては、補助金が打ち切られてしまうと収支が合わず継続できないということである。これでは仮設に入っている人達が困ってしまうので、国には継続を依頼している。

震災以降運休中のＪＲ山田線の代替運行として、宮古～船越間を、最初は9往復、現在は22往復を運行している。ＪＲの定期券や回数券で乗車でき、乗客も多いが、ＪＲとバスの差額分はＪＲが補てんしている。その他、グリーンエネルギーとのタイアップの電気自動車の事業として、環境省の補助でバスやカーシェアリングを行っている。２０１２年12月26日には県内初の導入となる電気バスの出発式も行われた（広報179号：6頁）。このバスはゴールデンウイーク中に浄土ヶ浜の無料巡回バス（写真14）としても活躍している。

### (2)　岩手県北観光の復興ツーリズム

岩手県北バスの子会社に岩手県北観光がある。この会社は復興ツーリズムを積極的にとりいれているので、この動きを紹介したい。また、復興ツーリズム推進協議会（会長中村慶久岩手県立大学元学長）という組織があり、２０１３年9月26日に設立総会がシートピアなあどで行われた。「三陸沿岸の復興に向けて付加価値の高い地域資源を発掘したコンテンツによって、震災・防災を学ぶ研修、教育旅行のツーリズム化を図ることを目的とする」とされ、岩手県北バス、三陸鉄道、宮古観光協会など18団体が参加、交流人口の拡大や雇用創出も目指すという（わが町４１９号：13頁）。こうした動きについて「自分の町を好きじゃないと観光業はできない」と語る県北観光で復興ツーリズムを担当している**今井仁さん**（１９７３年生）から２０１５年5月1日に会社の取り組みについて話を伺った。

**研修の受け入れについて**

県北観光社の復興ツーリズムは、個人単位で参加するものだけではなく、企業や団体レベルで参加する研修を用意している。ここではInput output workshopを踏まえた研修ということが謳われ、関連する行政や企業の話を聞き、仮設住宅をめぐり、聞いたことを通じて自分達の企業で何ができるのかを研修してもらう。自分達が学んだことを話して、聞いてもらうだけではなく、ストーリーを作っていくようにするのだという。こうしたプログラムは人材育成会社と協力して作っているとのことで、被災した時にリーダーになっていった人がいる。通常、学歴や経歴といった条件があってリーダーは選ばれるだろうが、被災した状態では別の条件で急にリーダーになっていく。それはどういうことなのか話を聞き、自分達で分析し、ワークショップをするものである。過去には名だたる大企業も参加していて、仮設住宅の建設に携わった企業は、自分達が関わった仮設住宅について実際に暮らしている人に話を聞いた。

こうした研修を沿岸部で行う理由を、今井さんは以下のように語る。

「ここは東京から見れば非日常的な環境だからだ。東京の会議室で話し合うのとは異なる答えになる。それは岩手を感じ自分が「地元人」になることにより判断や決断、生き方を本気で考えられる。宿泊も民宿のような宿で共同生活をすることにより、協調性も改めて感じてもらえる。主眼は研修であり、岩手だからこそ学べるものがここにはあ

るのだ。」

**ボランティアの受け入れについて**

今井さんは震災までは浄土ヶ浜レストハウスで働いていたのだが、被災したためにやむなく解雇された。その間ボランティア活動を行っていたが、その経験を買われて県北観光社の復興ツーリズム担当として声をかけられたという。震災当日の話は上述の島崎さんと同内容なので、省略するが、解雇となってもアイデンティティは浄土ヶ浜にあったという。「浄土ヶ浜を片付けないと気がおかしくなりそうだった」と振り返る今井さんは、浄土ヶ浜の片づけをしている時、ある老夫婦から手伝わせてほしいと声をかけられた。その理由を聞いたところ「昔、浄土ヶ浜に来たことがあり、その時の景色が忘れられなくてここに来た」という。津波は人や物や沢山の想い出を流しただけではなく、生きている人の気持ちも奪ってしまった。津波に遭った自分の街（浄土ヶ浜）を好きでいてくれる人がいると気づき、忘れていた「人の想い出になる仕事をしたい！」という信念で、自らもボランティアに取り組むことになっていく。

「みなさんが宮古にボランティアに来てくれたので、私は地元に残ることができた。縁もゆかりもない人達が、震災をきっかけに岩手に来てくれたことに対して、今の仕事は恩返しだと思っている。」

この経験をこのように語る今井さんであるが、実際に現場にいた彼の印象として、1年ごとにボランティアに携わる人々の感覚が変化しているという。２０１１年当初はボランティアをしに東北へ行こうという意識があった。こうしたニーズに対しては県北観光ではボランティアバスを運行させ、3年間で2万数千人が利用した。２０１２年になってニーズがボランティアから街づくりに変わっていく。２０１３年は農業や漁業などの再生、２０１４年になり、ボランティアは少なくなり、ふるさととしての岩手に着目する人が増えてきた。そしてこれまでボランティアで岩手に来た人達が、再び来るようになってきている。2年目からリピーターが増えているといい、「ふるさとのない人が、ここにふるさとを見つけたのだといえるだろう」と今井さんは考えている。

さらに２０１５年にはボランティアから観光という風に意識がシフトしている。しかし、観光といっても従来の景色や食を楽しむだけではなく、ボランティアなどで一度会った人にもう一度会いに来るというスタイルになりつつあるという。そこで県北観光としても観光だけではなく、何度も帰ってこられるような仕組みをつくるようにしている。花畑を手伝うボランティアをして種をまけば、花が咲いたころにまた来るキッカケができるようなツアーも企画している。

「私は外の人だから…。そんな言葉を耳にするが、風に吹かれて外から新しい種が運ばれる。そして、その種も土が無いと花が咲かない。街も同じで新しい風と土が合わさり「風土」という歴史が生まれる。浄土ヶ浜や龍泉洞を見に行くだけの観光だけではなく、人に会いに来る観光、それが新しい（復興）ツーリズムの一つだと思っている。」

こうした新しい形のツーリズムは、リピーター同士の人間関係も構築していく。今井さんによれば、ＳＮＳなどを使って個人旅行で岩手に来る人も増えているという。参加者こそが主役であるから、そうしてできた輪が広がっていくことで、今まで岩手に縁もゆかりもない人達も、継続した交流人口の増加に繋がっている。岩手が「第2のふるさとになって、今まで関わってきた人が帰ってこられるような場所にし、人と人を結び合わせるようなもの」なのだという。現在ではこうしたボランティアを通じて各地にネットワークができ、情報交流会や、東北のイベントにも参加しているようだ。社会人になると新しい仲間と出会う事が少ないが、こうした場で人生の仲間を作ることができるというのも魅力のようだ。

---

注(9) 岩手県北観光のブログにそのリアルタイムの情報が掲載されている（http://www.kenpokukanko.co.jp/knp/?p=103）

そこで県北観光は、「けっぱれ東北」という一連の商品をたちあげている[注(9)]。現在30～40人の参加者があるそうだが、うち半数はリピーターだという。全国からの参加の中でも関東周辺からが一番多い。ツアーの一例をみてみよう。2泊3日で沿岸地をめぐるツアーは、初日の8時30分に盛岡を出発、陸前高田市で奇跡の一本松・市内視察ののち「フラワーガーデン再生のチョイボラ」[注(10)]をし、民宿に宿泊する。翌日は大槌町で復興の菜の花畑鑑賞、遠野で名物バケツジンギスカンを食し、内陸の大沢温泉で自炊をして交流会。最終日は小岩井農場散策やいちご狩りをして盛岡へ戻る。こうしたツアーにボランティア体験をいれるのは、共同作業を通じて他の参加者と仲間になり、つながりが生まれ、自然と岩手が好きになり、新たなリピーターが増えていくと考えているからだという。

## 4　三陸復興国立公園と三陸ジオパーク

### 三陸復興国立公園

2013年5月24日「三陸復興国立公園」が誕生した。これは東日本大震災により被災した三陸地域の復興に貢献するために指定されたもので、陸中海岸国立公園に青森県種差海岸階上岳県立公園が編入され南北約220キロとなった。その後も宮城の南三陸金華山国定公園と3つの県立自然公園も順次編入が検討されている。あわせて、「みちのく潮騒トレイル」という青森県八戸市蕪島から、福島県相馬市松川浦までの全長700キロほどを歩いて旅ができるコースを順次整備する（広報185号：26～27、わが町415号：15頁）。環境省の自然保護官の櫻庭佑輔さんによれば「浄土ヶ浜を始めとして、市街地のすぐそばに自然がある環境はなかなか無い。地元の人の生活に関係のある国立公園として、より身近に感じてもらえるように情報発信をしていきたい（広報187号：3頁）」という。

2013年5月25～26日には、三陸復興国立公園指定記念イベントが行われた。25日には10時から記念植樹が行われ、両日9時から17時に「浄土ヶ浜満喫キャンペーン」として、浄土ヶ浜の対象施設を利用するともらえるシールを集めて抽選で記念品がもらえるというものである。その対象施設は浄土ヶ浜ビジターセンター、県立水産科学館、浄土ヶ浜パークホテル、宮古浄土ヶ浜遊覧船、浄土ヶ浜マリンハウス、浄土ヶ浜レストハウス、休暇村陸中宮古、宮古自然保護官事務所である。ビジターセンターとレストハウスでも催しが行われ、ビジターセンターは25日10～13時に八戸クラフト体験、26日11～14時イカせんべい焼き体験で、レストハウスでは26日までの毎日8時30分から17時に菊池和弘水彩スケッチ展、26日14時から復興支援コンサートを行った（広報186号：3頁）。

この三陸復興国立公園の中で宮古市内に位置するものは三王岩、姉ヶ崎、潮吹穴、浄土ヶ浜、重茂半島である。関連するイベントとして、2014年5月24日に姉ヶ崎に位置する中の浜震災メモリアルパークの開園式が行われた。同施設は三陸復興国立公園の施設として、環境省が2億4千100万円をかけて中の浜キャンプ場を整備したものである。震災で被害を受けたトイレ棟、炊事場、周辺の山に津波の遡上高を示した看板、津波の高さの目線に立つことができる津波堆積土や、コンクリート片を使用した高さ13メートルの「展望の丘」等が津波のすさまじさを伝えている（わが町427号：4～5、48頁、広報213号：22頁）。

2014年8月17日には三王園地のオープニングセレモニーが行われた。約1万562平方メートルの敷地に三王岩や太平洋の景観が一望でき、3か所の展望台、説明板、東屋、トイレなどもある施設である。震災前から進められていた事業で、東日本大震災で中断していたが、この日開園となった（広報183号：36頁）。

### 三陸ジオパーク

（広報223号：4～11頁に特集）

これは三陸地方の美しい自然や豊かな文化などの地域資源を活用し、

---

(10)「ちょっとしたボランティア」のことで、簡単なボランティアのこと。

産業人口や交流人口の拡大を図ることを目的にしている。２０１３年４月22日、三陸ジオパーク推進協議会が、八戸から気仙沼までの南北３００キロの地域を三陸ジオパークとして、日本ジオパーク認定を受けるための申請書を提出した。申請のテーマは「悠久の大地と海と共に生きる～震災の記憶を後世に伝え学ぶ地域へ～」とされる。「三陸の海が生み出した美しい自然景観とともに、繰り返される災害に立ち向かい共に生きていく人々、地域の姿を伝え、災害の記憶を風化させることなく、世界へ発信していくことを目指」すという（わが町４１３号：52頁、広報１８７号：26～27頁、１９６号：16頁）。宮古市内にどういったジオサイト、ジオポイントがあるかは表２の一覧をご覧いただきたい。

**浄土ヶ浜ビジターセンター**

ジオパークと関連する施設として、浄土ヶ浜の第一駐車場に接する浄土ヶ浜ビジターセンター（以下、ビジターセンター）があげられる。震災後職員となった**佐々木洋介さん**（１９８３年生）から、２０１５年２月20日にお話を伺った。ビジターセンターは２０１０年４月完成した４階建ての建物で、主体は環境省で、運営を宮古市の商業観光課に委託している。国立公園の自然の良さを紹介することを目的としている。年間来場者は30万人ほどで、近年の宮古全体の観光客数70万人のうち、半数弱が立ち寄っている。特に４～10月は浄土ヶ浜まで車で降りられないので、第一駐車場に車を停めて浄土ヶ浜へ降りていく人が多いために多くなる。

冬には月１回、夏場は月に２～３回は磯の観察や、シーカヤックの体験などのイベントを実施していている。冬は参加者が少ないが、徐々に増えてきている。

２０１１年５月に再開したが、１階の腰の高さ位まで浸水したため、１階と地下１階は使えず、最初は２～３階での再開だった。当初、観光客はほとんどいなかったために、国内外から宮古に来たボランティアで立ち寄った人が中心だった。

２０１４年頃から観光客が増えてきたという。これにはＮＨＫの連続テレビ小説「あまちゃん」の効果が絶大だったと佐々木さんは語る。あまちゃんで盛り上がっているのを、現場にいて肌身で感じたのだそうだ。ボランティアから観光客へと変化したのは、靴を見れば一目で見分けがついた。

佐々木さんはこのところ国立公園を訪問する人が増えているというが、三陸復興国立公園は交通の問題がある。みちのく潮風トレイルは八戸から南相馬まで７００キロあり、これは健脚者で50日かかる距離だ。南北に長すぎて誰にでも共通するおすすめコースは作りにくい。問い合わせがあれば交通手段、日程、体力、人数、年齢などを聞きながら個別に提案するようにしている。案内で多いのは１時間程度のもの、15分くらい歩いて、残りの時間を説明に充てるとこのくらいになるのだそうだ。

ジオパークの中の浄土ヶ浜の部分はビジターセンターが担当しているため、その関係者もビジターセンターを訪問するという。ジオパークと国立公園とでコラボレーションして、エコツーリズムなどの講習会のようなプログラムの提供も月１度ほどおこなっている。

**おわりに**

以上、宮古市における観光の被災と復興に向けた取り組みを確認し

表２　宮古市内のジオサイトとジオポイント

| | ジオサイト | ジオポイント |
|---|---|---|
| 23 | 浄土ヶ浜 | 浄土ヶ浜、潮吹穴、日出島、ローソク岩 |
| 24 | 重茂半島（魵ヶ崎） | 魵ヶ崎 |
| 25 | 田老の防潮堤 | 田老の防潮堤、たろう観光ホテル跡、中の浜キャンプ場施設の一部、津波到達点、津波記念碑 |
| 26 | 早池峰山 | 薬師川渓流の古生界、早池峰山 |
| 27 | 三王岩 | 三王岩 |
| その他 | | 腹帯の混在岩、崎山貝塚、黒森神社 |

てきた。現場の人びとの間に共通するのは、破壊されたわが町を被災地として観光の呼び水にして見世物にすることは不本意であるという感情がある。同時に復興のためには産業としての観光を起こさなくてはいけないという実利の問題との間で揺れる姿であった。さらに、自然の大きさと、人の小ささを知ることで、防災に役立てるという後世への教育という必要性も付け加わっている。こうした複数の基準の間で苦悩する姿が印象的であった。しかし、現場の人びとは、いつまでも被災地観光ではなく、新しい宮古の観光を構築しようと前向きである。

当然のことながらこの度の被災経験は突発的なもので、準備期間があったわけではない。先例がなく、経験、人材、資金、物資といったありとあらゆるものが不足する中、手探りの状態の中での取り組みであった。そこに見たのは新しい人との出会いを通じたおもてなしであり、揺れながらも、復興、風化の防止のために、という強い意志や使命感で取り組む人々の姿だった。

【参考（引用）文献】
吉本浩二『さんてつ　日本鉄道旅行地図帳 三陸鉄道 大震災の記録』２０１２年　新潮社
中井精也『夢と希望の三陸鉄道　開業30周年＆全線運行再開記念』２０１４年　徳間書店
源明輝『さんてつに乗ろう！』２０１４年　オークラ出版
国松俊英著、間瀬なおかたイラスト『はしれ さんてつ、きぼうをのせて』２０１４年　ＷＡＶＥ出版
品川雅彦『三陸鉄道　情熱復活物語』２０１４年　三省堂
冨手淳２０１４『線路はつながった　三陸鉄道 復興の始発駅』２０１４年　新潮社

【資料】
宮古市総務企画部復興推進室編２０１２『宮古市東日本大震災復興計画』岩手県宮古市
『広報みやこ』
『月刊　みやこわが町』
岩手県北観光 http://www.kenpokukanko.co.jp/
リアス観光　株式会社 http://riasu.server-shared.com/
宮古旅手帳　みやこへおでんせ http://kankou385.jp/

## 表3　2011年3月から2014年4月に行われたイベント一覧

| 年 | 月 | 日 | イベント名 | 場所 | 主催 | 内容／備考 | 出典 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2011 | 8 | 11 | Light up Nippon 追悼花火大会 | 田老庁舎周辺 | | 同時に「追悼 2011.8.11 田老防浪堤夢灯り」が常雲寺境内にて行われ、震災から5か月の追悼と復興を祈る。花火に先立って黙とう。 | 広報み 145 |
| 2011 | 8 | 14 | 第44回宮古夏まつり | 出崎ふ頭沖 | 宮古夏祭協賛会 | 海上花火大会／この年は花火大会のみ | 広報み 143 |
| 2011 | 9 | 11 | 浄土ヶ浜さんまフェスタ | レストハウス前広場 | 宮古観光協会 | 先着250人、参加料1人500円（生さんま1本、イカ一夜干し、すり身汁、おにぎり）、抽選でサンマのつかみ取り | 広報み 145<br>広報み 147 |
| 2011 | 9 | 17−18 | 第27回みやこ秋まつり | 宮古地区合同庁舎駐車場 | みやこ秋まつり実行委員会 | 市内パレード、手踊りパレード、船山車、（ゲスト：青森ねぶた、黒石もつけ太鼓、サンバなど）、おまつり広場ステージイベント。コース：五月町合同庁舎⇒あいさつ通り⇒宮古駅前 | わが町 393<br>広報み 144<br>広報み 145 |
| 2011 | 10 | 1−2 | 復興祈念　第17回宮古市産業まつり | 市民総合体育館 | 宮古市産業まつり実行委員会 | オープニングセレモニー、もちまき、お振舞い、お楽しみ抽選会、特産品、地場産品販売、姉妹都市物産展、企業紹介、学習成果発表、キッズマーケット、郷土芸能によるオープニングセレモニー、小学生ものづくり体験教室、音楽演奏、ダンスパフォーマンス、郷土芸能のステージなど。／津波で被害を受けた宮古市の産業の早期回復のため、地元物産や企業製品を集める。100店舗以上のブースが出店。来場者1万5千人ほど。 | わが町 393<br>わが町 395<br>広報み 143<br>広報み 146<br>広報み 149 |
| 2011 | 10 | 9 | 第11回　三陸シーカヤックマラソンin宮古 | | 三陸シーカヤックマラソン大会実行委員会 | レースは行わず、湾内のツーリング、神林漁港から出艇後湾内をツーリング。／テーマ「ともに復興」、震災後初の宮古湾でのイベント、参加者155名（過去最高）。藤原ふ頭のがれき置き場前でホーンを合図に黙とう。 | わが町 395<br>広報み 146<br>広報み 149 |
| 2011 | 10 | 15 | みやこ夢レールフェスタ | 宮古駅前広場 | みやこ夢レール創造事業実行委員会 | JRのキャラクターショー、ミニSL乗車会、地域物産の販売、ステージコンサート、三陸鉄道宮古、小本間体験乗車。／5回目。鉄道の魅力を多くの人に知ってもらいながらイベントを通して情報を発信する支援事業。 | わが町 395<br>広報み 147<br>広報み 149 |
| 2011 | 11 | 5−6 | 第12回　全国新撰組サミットin宮古 | JR宮古駅前広場など | | 5日13:00開会式（JR宮古駅前広場）、「新撰組revo」よさこい踊り（新選組の故郷日野のよさこい連）、「ミスターブ　リュネ　コンテスト」表彰式、「土方歳三写真コンテストin宮古」表彰式。13:30-14:30末吉町商店街　宮古新撰組パレード。13:20-17:20宮古復興記念イベント（鍬ケ崎小学校）、ひっつみ振る舞い、宮古大漁祝唄、土方歳三の子孫土方愛氏によるトークショー、祇園囃子、記念講演会。18:20-20:30新撰組ファンの集い（浄土ヶ浜パークホテル）、6日　9:00-　宮古湾海戦バスツアー、遊覧船と貸し切りバス、魚菜市場での買い物支援。 | わが町 395<br>わが町 396<br>広報み 148<br>広報み 151 |
| 2011 | 11 | 13 | がんばろう宮古サーモンハーフマラソン | 宮古消防署前広場 | 宮古サーモン・ハーフマラソン実行委員会 | 10キロの部、5キロの部、ペアマラソン（約2キロ）／例年はハーフ種目もあったが、コースが被災しこの年は行っていない。参加者2,571人。参加資格　小学生以上で健康に自信のある人。参加料一般3,000円、中高生1,200円、ペアマラソン3,500円。 | わが町 393<br>わが町 396<br>広報み 145<br>広報み 149<br>広報み 151 |
| 2012 | 1 | 8 | 宮古サーモンフェスタ | 宮古駅前広場 | 宮古観光協会 | サケ切り身プレゼント（先着100名）、餅まき、鮭のつかみ捕り、チャンチャン焼きおふるまい、サケ汁おふるまい（先着300名）、サケのおもちゃ釣り大会、恵比寿まき、山口太鼓演奏、歌謡ショー。／例年は津軽石川で行っていたが、震災の影響で場所を変更 | 広報み 153<br>広報み 155 |
| 2012 | 1 | 8 | 商店街レッドカーペット2012 | | | スポーツで好成績を残した生徒、成人式直後の新成人が長さ150メートルほどの赤いカーペットの上を行進。／初開催。震災からの復興・再生を目指し末広町商店街振興組合がすすめる宮古の三気（元気・活気・人気）UP事業の一環。 | 広報み 155 |
| 2012 | 2 | 19 | 毛がにまつり | | 宮古観光協会 | 一本釣り、輪投げ、体験セリ市、300名に毛ガニ汁ふるまい、もちつき、恵比寿まき、暴れ太鼓、ちゃぶ台返し世界大会in宮古予選、マグロ解体ショーなど。／来場者約1万6千人、宮古駅前からのシャトルバスあり。 | わが町 400<br>広報み 156<br>広報み 157 |
| 2012 | 5 | 3−6 | 浄土ヶ浜まつり | | 宮古観光協会 | 3日：10時、13時シーカヤック体験試乗会、10-15時　お楽しみ抽選会、11-14時　炭火焼コーナー、12時　毛ガニ汁お振る舞い　先着100名、10時30分　友愛歌謡ショー、12時30分　金澤未咲、小田代直子ジョイントコンサート。4日：10時、13時シーカヤック体験試乗会、10-15時　お楽しみ抽選会、11-14時　炭火焼コーナー、12時　毛ガニ汁お振る舞い　先着100名、11-14時　芸能まつり。5日10-15時　お楽しみ抽選会、11-14時　炭火焼コーナー、12時　毛ガニ汁お振る舞い　先着100名、10-12時琴演奏会、MDSダンススクールステージ。6日:10-15時　お楽しみ抽選会、11-14時　炭火焼コーナー、12時　毛ガニ汁お振る舞い　先着100名、11時　フィッシングゲーム | わが町 401<br>広報み 160 |
| 2012 | 5 | 12−13 | アンパンマントロッコ列車 | JR山田線　宮古茂市間 | | アンパンマンマーチの合唱、クイズ、じゃんけん大会など。／JR四国が所有する車両で、JRが被災各県で運行している。 | わが町 402<br>広報み 163 |
| 2012 | 5 | 12 | みやこ夢レールフェスタ | 宮古駅前広場 | | 宮古産の食材を用いた弁当の販売、ミニSLの体験乗車、ステージイベント、三陸鉄道宮古小本間無料体験乗車。／鉄道の魅力を多くの人に楽しんでもらう | わが町 402 |
| 2012 | 6 | 9−10 | 第2回　宮古あきんど復興市2012 | 末広町商店街、中央通り商店街 | | キャラクターショー、町なか潮干狩り大会、全国の物産を集めた「全国かけはし市」雫石の「軽トラ市」 | 広報み 165 |
| 2012 | 7 | 28−29 | 宮古夏祭り | 市内商店街 | | 郷土芸能、民謡コンサート、よさこいソーラン、市民手踊りパレード、青森産ホタテの無料試食会（先着1000人、29日）。／2011年は津波で花火大会だけの開催だったが、2012年に再開。 | わが町 405<br>広報 166・169 |
| 2012 | 8 | 5 | 浄土ヶ浜サマーフェスタ | 浄土ヶ浜レストハウス前 | 宮古観光協会 | 子ども浴衣コンテスト、ビーチサンダル飛ばし大会、爆笑ジャンボ竹さおスイカ割り大会、浮輪投げ、シーカヤック体験試乗会、歌謡ショーなど。 | 広報み 167 |
| 2012 | 8 | 5 | 第21回　宮古港ボート天国 | 神林木材港仮設施設 | 宮古港ボート天国推進協議会 | 全国から支援を受けたボート約10艇、水上バイク、シーカヤック、ヨットなど。陸上には子供用プール。／2年ぶりの開催。 | わが町 405<br>広報み 167 |
| 2012 | 8 | 5 | 重茂味まつり | 重茂漁港 | 重茂漁業協同組合 | 海藻小袋まき（中に引換券が入っていて、海産物と交換できる）、アワビとり、焼きウニ造り体験、活きウニ、活きアワビなどの販売、食事、出店コーナー、本州最東端クルーズ。 | 広報み 167 |
| 2012 | 8 | 14 | 宮古夏まつり花火大会 | 出崎ふ頭沖合 | | 当日はみやこ（たろう）災害エフエムでメッセージ花火の内容の放送も。三陸鉄道が臨時列車。 | わが町 404<br>広報み 166 |
| 2012 | 9 | 15−16 | 第28回　みやこ秋まつり（第1回宮古市復興祈願祭） | 市内末広町、大通り | みやこ秋まつり実行委員会 | 10基の船山車、市民手踊りなど約30団体2,000人のパレード、山口太鼓、ミス復興むすめ、新撰組の衣装、宮古あばれ太鼓、浅草サンバ、宮古海戦の会等。 | わが町 405<br>わが町 406<br>広報み 169<br>広報み 172 |

| 年 | 月 | 日 | イベント名 | 場所 | 主催 | 内容／備考 | 出典 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2012 | 9 | 22<br>−23 | さんまフェスタ | 浄土ヶ浜レストハウス前広場 | | 11 時　秋刀魚づくしセット販売開始（生さんま、丸干しさんま、ウニごはん、ホタテ、甘露煮、秋刀魚刺身、えび、すりみ汁、1000 円、先着 250）、秋刀魚のつかみ取り抽選、歌謡ショー（23 日）、シーカヤック体験試乗会（23 日）。11 時 30 分　ひきめ里っこ鍋お振る舞い（23 日、先着 50 名）。12 時　秋刀魚のつかみ取り（両日、各 10 名）。12 時 30 分　マグロ解体ショー(23 日)。13 時　秋刀魚詰め放題(参加料 500 円､両日、各 40 名)。13 時 30 分　マグロブロック争奪選抜クイズ（23 日） | ちらし、<br>広報み 170<br>広報み 172 |
| 2012 | 9 | 29<br>−30 | 宮古市産業まつり | 市民総合体育館 | | 初日、餅まき、郷土芸能披露 | わが町 407 |
| 2012 | 10 | 6<br>−7 | 2012三陸シーカヤックマラソンレースin宮古 | 宮古湾内 | 2012三陸シーカヤックマラソンレースin宮古実行委員会 | 参加者県内外からの愛好者約 80 人、被災地復興の願いを込めて。施設が被災したため昨年度は湾内ツーリングだけであったが、今年は 10 キロの部でタイムを競う。 | わが町 407<br>広報み 169<br>広報み 174 |
| 2012 | 10 | 13<br>−14 | 宮古あきんど復興市 | 市内の商店街（末広町､大通り､中央通り） | 地元商店街、福祉団体､高校など | 初日：マグロ解体ショー（刺身が先着 200 名にふるまわれる）、産直まつり（軽トラで新鮮な野菜を販売）、サンマを七輪で自分で焼くコーナー、屋台等、福祉施設による漫画家吉田戦車さん、伊藤理佐さん夫婦の似顔絵サイン会、音楽コンサート、人間空気椅子コンテスト、ポニー乗車会。／来場者 1 万 5 千人。 | わが町 407<br>広報み 174 |
| 2012 | 11 | 11 | 第26回　宮古サーモンハーフマラソン | | 宮古サーモン・ハーフマラソン大会実行委員会 | 8:15: 開会式（宮古消防署前広場）、9:00：5 キロの部（合同庁舎前⇔藤原地区）9:40：ハーフマラソンの部（合同庁舎前⇔金浜地区、新コース震災後初､599 人参加）、10:10:10 キロの部（合同庁舎前⇔八木沢団地）、10:20：ペアマラソンの部（合同庁舎前⇔末広町）。サンマの塩焼き、サケ汁、サケご飯のふるまい。／参加者 2773 人。北は北海道旭川、南は熊本から参加。交通規制は 12 時に解除。昨年は開催できなかったハーフ部門も海沿いのコースを市街地を往復するコースに変え復活。 | わが町 407<br>わが町 408<br>広報み 169<br>広報み 173<br>広報み 175 |
| 2012 | 11 | 24 | 鮭･あわびまつり | 田老第一中学校校庭 | 田老観光イベント実行委員会 | サケ汁の無料おふるまい、各種海産物の販売、各種農作物の販売、姉妹都市八幡平市の特産品コーナー、たろう太鼓の公演、歌謡ショー、ステージイベント、餅まきなど。／昨年は震災の影響で中止していたが、会場変更、日程も 1 日として開催。 | 広報み 173<br>広報み 176 |
| 2012 | 12 | 1 | JR宮古駅リニューアル完成記念式典 | JR宮古駅前 | JR宮古駅 | 宮商太鼓の演奏、餅まきなど | 広報み 174 |
| 2012 | 12 | 1 | みやこ夢レールフェスタ | 宮古駅前広場 | みやこ夢レール創造事業実行委員会 | 開会セレモニー、ミニ SL 体験乗車、ステージイベント、模擬店、三陸鉄道体験乗車（小本まで）、閉会セレモニー | 広報み 174<br>広報み 176 |
| 2012 | 12 | 2 | 宮古復興祈願 | 宮古魚市場 | 宮古岩手ライオンズクラブ､田老ライオンズクラブ､陸中宮古ライオンズクラブ､東京日本橋ライオンズクラブ | かっこめ贈呈（先着 100 名）、宮古水産高校和太鼓演奏、大熊手御開帳、復興祈願法話、おしるこ振舞、小田代直子歌謡ショー、お楽しみ抽選会 | わが町 408 |
| 2013 | 1 | 1 | 第10回元旦マラソン＆ウォーク | | みやこサーモンランナーズ | 宮古駅前⇒横山八幡宮⇒花輪橋の往復 | わが町 409 |
| 2013 | 1 | 13 | 第41回､宮古サーモンフェスタ | 宮古駅前広場 | | 鮭のつかみ取り、ステージショー（宮古水産高校の宮古太鼓、久保田雅さん、小田代直子さん、金澤未咲さんの歌謡ショー）、鮭の切り身のプレゼント、チャンチャン焼き、サケ汁の振る舞い、えびすまき。／つかみ取りには 100 名参加。 | わが町 410<br>広報み 177<br>広報み 179 |
| 2013 | 1 | 13 | 商店街レッドカーペット 2013 | | | 商店街を歩行者天国にして、スポーツや文化活動で活躍した市民や新成人 1600 人ほどが、250 メートルのレッドカーペットの上を歩く。／昨年に続き 2 度目。昨年慶祝事があった人や復興関係者の労をねぎらい、地域の絆を深めるため。 | わが町 410<br>広報み 177 |
| 2013 | 2 | 17 | 第11回　宮古毛ガニまつり | 宮古魚市場特設会場 | 宮古観光協会 | 11:30：体験せり市、毛ガニ汁のふるまい（先着 300 名）。9:30、10:30、12:30、13:30：宮古産毛ガニの一本釣り大会（参加費 1500 円、先着 200 名、開場と同時に予約券が完売）。10:00：MDS ダンスステージ。10:30：山口太鼓。11:00　えびすまき。12:00：ちゃぶ台返し全国大会予選。13:00：久保田雅ショー。13:30：金澤未咲ショー。お楽しみ抽選会､毛ガニ海産物等の販売。／来場者：1 万 5 千人。宮古駅前から無料シャトルバスの運行。 | わが町 410<br>わが町 411 |
| 2013 | 3 | 24 | たろちゃんハウス祭り | | たろちゃん協同組合 | 各仮設店舗の露店販売、特設ステージ（餅まき、小田代直子さんや宮古民謡保存会のコンサート、神風宮古流星海や田老民謡愛好会の演舞など）、田中菓子舗の「田老かりんとう」の販売再開 | 広報み 185 |
| 2013 | 4 | 2 | 豪華客船｢にっぽん丸｣寄港 | 藤原埠頭 | | 大勢の市民や宮古小学校ブラスバンド部の演奏による歓迎、記念の大漁旗の贈呈／船長の久葉さんは震災直後被災者に食事や入浴の支援を行った｢ふじ丸｣の当時の船長でもある。3 年ぶりの寄港。 | 広報み 185 |
| 2013 | 4<br>5 | 28<br>3<br>−6 | 浄土ヶ浜まつり | | | シーカヤック体験試乗会　5 月 3，4 日　参加費 500 円。毛ガニ汁おふるまい　5 月 3-6 日　先着 100 名。歌謡ショー(友愛の会、金澤未咲、立花英樹）5 月 3 日。浄土ヶ浜芸能まつり、阿波踊り 5 月 4 日。琴演奏会、MOPS ダンス、M.D.S ダンススクール　5 月 5 日。フィッシングゲーム　5 月 6 日 | 広報み 185<br>広報み 187 |
| 2013 | 5 | 12 | 田老大漁まつり | 田老総合事務所付近の公園 | 田老大漁まつり実行委員会 | 餅まき、たろう太鼓、よさこいソーラン、歌謡ショー | 広報み 188 |
| 2013 | 5 | 25 | みやこ田老鎮魂の祈り | グリーンピア三陸みやこ多目的アリーナ | 鎮魂の祈り実行委員会 | 中尊寺の僧侶による三回忌法要、田老太鼓、宮古北高校応援団によるエール、海嘯鎮魂の詩（田畑ヨシさん作）、臼澤みさき復興応援ミニライブ、夢灯り、青山学院女子短大によるハンドベル演奏 | 広報み 185 |

| 年 | 月 | 日 | イベント名 | 場所 | 主催 | 内容／備考 | 出典 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2013 | 6 | 1 | 宮古市Sea級グルメコンテスト | フラットピアみやこ | | 市内の６事業者が海産物など地元の食材を生かした料理13品を出品。／友丸しまかの「鮭のめんちかつ」、浄土ヶ浜旅館の「あんかけウニ飯」がグランプリに。 | 広報み 189 |
| 2013 | 6 | 8−9 | 宮古街なか復興市 | 末広町、中央通り商店街 | 宮古街なか復興市実行委員会 | 市民てづくり市、街かど音楽祭・芸能祭、街なか潮干狩り大会（仮設の砂場を作成し、アサリなどを掘る）、地物市、花の市、街なかドックショー、トランポリン、フリーマーケット。宮古街なかまるごと100円商店街　６月８日10時から。／５回目。100店舗余りが参加歩行者天国に。「被災地商店街から元気を発信する」 | わが町 414<br>わが町 415<br>広報み 187<br>広報み 191 |
| 2013 | 6 | 9 | パワーストックin宮古2013 | 魚市場の隣接地につくられた特設会場 | | | 広報み 189 |
| 2013 | 7 | 14 | 第21回海の日記念宮古港カッターレース | 宮古魚市場前 | 宮古市体育協会 | 18チームの参加、長さ９メートルのカッターに14人が乗り込み往復600メートルのコースで競う。／震災後３年ぶりに復活。 | わが町 416<br>広報み 188 |
| 2013 | 7<br>8 | 27−28<br>14 | みやこ夏祭り | | | ７月27日　郷土芸能の披露（宮古駅前広場）、末広町神輿巡行、市民手踊り、太鼓団体の競演（末広町から中央通り）。７月28日曳船まつり（宮古市魚市場内）、郷土芸能の披露（宮古駅前広場、末広町から中央通り）。８月14日花火大会　20時　出崎埠頭 | わが町 416<br>広報み 193 |
| 2013 | 8 | 4 | 第7回重茂味まつり | | 重茂漁業協同組合 | ウニやアワビなどの海産物や加工品の販売、ステージショー、本州最東端クルーズ。 | 広報み 193 |
| 2013 | 8 | 4 | 浄土ヶ浜サマーフェスティバル | 浄土ヶ浜レストハウス前 | 宮古観光協会 | ビーチサンダル飛ばし大会、ジャンボ竹ざおスイカ割り大会、子ども浴衣コンテスト。／子ども浴衣コンテストには42人が参加。 | 広報み 194 |
| 2013 | 8 | 11 | 宮古ボート天国 | 神林木材港とその付近 | 宮古湾ボート天国推進協議会 | プレジャーボート、クルーザー、ヨット、水上オートバイ、シーカヤックなどの体験航海、試乗会、ミニプールなど。 | わが町 416<br>わが町 417<br>広報み 194 |
| 2013 | 8 | 24 | ポケモントレイン宮古号 | | | 人気アニメポケットモンスターがデザインされたJR東日本の「ポケモントレイン宮古号」が山田線で運行開始。出発前に市民ら約120人が列車を見学した。 | 広報み 194 |
| 2013 | 8 | 25 | 2013復活！JAZZin浄土ヶ浜 | 浄土ヶ浜 | JAZZin浄土ヶ浜実行委員会 | 出演者：綾戸智恵、あんみつ（T-SQUARE）、ちだ原人NUTS,市民有志による演奏、いずみしん他。／20年ぶりの開催。 | わが町 416<br>広報み 192<br>広報み 195 |
| 2013 | 9 | 14−15 | 第29回みやこ秋まつり、第2回宮古市復興祭 | 宮古駅前広場 | みやこ秋まつり実行委員会 | 手踊りパレード、船山車運行、お祭り広場、ゲスト出演、サンバチーム仲見世バルバロス、10台を超える船山車、市民手踊りパレード（30団体2000人）、人気アニメ、ポケットモンスターのイベント、その他ステージイベント。 | わが町 417<br>わが町 418<br>広報み 193<br>広報み 195 |
| 2013 | 9 | 14−15 | 浄土ヶ浜さんまフェスタ | 浄土ヶ浜レストハウス前 | | サンマづくしセット販売、サンマのつかみ取り（14,15日）、大衆演劇人気座長４人によるユニット「LINK」ステージイベント、シーカヤック無料体験試乗会、餅まき、マグロの解体ショー、マグロブロック争奪選抜クイズ（15日）。 | 広報み 193<br>広報み 195 |
| 2013 | 9 | 21 | みやこ夢レールフェスタ | | | オープニングセレモニー　10:00-10:15、物産販売　10:00-15:00、駅前広場コンサート10:20-15:00、ミニSL乗車会11:00-14:00、三陸鉄道映画列車10:50-12:00、ポケモントレイン宮古号車両見学会11:40-13:10受付、12:40-13:20見学、宮古産食材を使ったお弁当の販売12:00から、三陸鉄道無料体験乗車13:20-14:50、閉会セレモニー・餅まき15:05から。三陸鉄道写真展　９月12-25日。 | 広報み 194 |
| 2013 | 9 | 28−29 | いわて三陸鎮魂復興祭 | 奥浄土ヶ浜 | 幸せ出ずる国いわて実行委員会 | 黒森神楽などの郷土芸能の競演、京都醍醐寺、島谷ひとみさん、錦織健さん、中村勘九郎さん、中村七之助さんの公演。 | 広報み 197 |
| 2013 | 10 | 5−6 | 第19回宮古市産業まつり | 市民総合体育館 | 宮古市産業まつり実行委員会 | 特産品・地場産品販売、姉妹都市・友好都市等物産展、企業紹介・学習成果発表、Sea級グルメ販売、ステージイベントほか。Sea級グルメコンテスト、「三鉄縦断小学生クイズ大会。宮古予選」／復興加速年と位置づけられ多くの来場者でにぎわった。104店舗が出店、１万１千人が訪れる。 | わが町 417<br>わが町 419<br>広報み 197 |
| 2013 | 10 | 12−13 | 2013三陸シーカヤックマラソンレースin宮古 | 宮古湾内 | 三陸シーカヤックマラソンレースin宮古実行委員会 | レース後、さんま、つみれ汁の振る舞い。／県内外から101人が参加<br>「被災地復興の願いを込めて力強くパドルをこいだ」。 | わが町 419<br>広報み 193 |
| 2013 | 10 | 13−14 | 宮古街なか復興市2013秋 | 末広町商店街、中央通商店街 | 宮古街なか復興市実行委員会 | 宮古の秋はうまいぞ！大会、街かど音楽祭・芸能祭、元気な宮古っ子全員集合！、宮商デパート、はあとふるフェスタ、フリーマーケット、宮古街なかまるごと100円商店街（13日）、第１回三陸利き魚選手権大会(14日) | 広報み 195<br>広報み 198 |
| 2013 | 11 | 10 | 第27回宮古サーモン・ハーフマラソン | 宮古市内のコース（宮古地区合同庁舎を発着点とし、ハーフ、10キロ、5キロ、ペア(約2キロ)） | | 全国各地から3321人がエントリー。室伏広治選手、市川華菜選手もゲスト参加。 | わが町 420<br>広報み 193<br>広報み 197<br>広報み 199 |
| 2014 | 1 | 1 | 第11回元旦マラソン＆ウォーク | | 宮古市役所サンデーランナーズ | 宮古駅前、横山八幡宮（初詣）、花輪橋方面の往復 | わが町 421 |
| 2014 | 1 | 12 | 商店街レッドカーペット2014 | | 末広町商店街振興組合 | 様々な分野で活躍した市民や新成人が250メートルのレッドカーペットを歩く。／３回目。新成人としての抱負をマイクで語ったあと、レッドカーペットの上を歩く。見守る市民はクラッカーなどで祝福。 | わが町 422 |
| 2014 | 1 | 12 | 第42回宮古鮭まつり・宮古サーモンフェスタ | 宮古駅前広場 | | 鮭のつかみ捕り（２つの特設プール、100人参加）、餅まき、各種ステージ、鮭の切り身プレゼント、宮古水産高校の太鼓、金澤未咲さん、久保田雅さんの歌謡ショー、MDSのダンスステージ | わが町 422<br>広報み 201 |

| 年 | 月 | 日 | イベント名 | 場所 | 主催 | 内容／備考 | 出典 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2014 | 2 | 16 | 宮古毛ガニまつり | | 宮古観光協会 | 毛ガニ一本釣り、毛ガニの販売、矢巾町のタケルンジャー、恵比寿撒き、毛ガニ汁の振る舞い、毛ガニの輪投げ、体験競り市、ステージショー（金澤未咲さん、久保田雅さん、キャラクターショー）／あいにくの大雪。 | わが町 423<br>広報み 203<br>広報み 205 |
| 2014 | 4<br>5 | 29<br>3<br>−6 | 第35回浄土ヶ浜まつり | | 宮古観光協会 | 毛ガニ汁お振る舞い（期間中 12 時、先着 100 名）。4 月 29 日霊境祭 9:30、浄土ヶ浜ウォーキング 10:30-12:00。5 月 3 日友愛の会歌謡ショー 10:00、激辛冷麺早食い大会 12:00、金澤未咲歌謡ショー 12:40、小田代直子歌謡ショー 13:40．4 日浄土ヶ浜芸能まつり第一部 11:00、久保田雅歌謡ショー 13:30、浄土ヶ浜芸能まつり第二部 14:00。5 日琴演奏会 10:00、宮小吹奏楽 11:30、MOPS ダンスステージ 13:00、MDS ダンスステージ 13:30。6 日フィッシングゲーム | 広報み 208<br>広報み 211 |
| 2014 | 5 | 14 | 客船「ぱしふぃっくびーなす」宮古港入港 | | | 宮古小学校のブラスバンド、宮古市長の歓迎のあいさつ、乗船客らは浄土ヶ浜、さんてつを利用し、北山崎、龍泉洞などのオプショナルツアーに参加、花見かき、山菜の天ぷらに舌鼓。／日本クルーズ客船、H18 年以来 8 年ぶり 4 度目。「春の日本一周クルーズ」の最終寄港地とする。（横浜発、九州、日本海をめぐり宮古へ）。351 人の乗客。 | わが町 426 |
| 2014 | 6 | 1 | パワーストック in宮古 | なあど隣接地の特設会場 | | | 広報み 213 |
| 2014 | 7<br>8 | 26<br>−27<br>14 | 宮古夏まつり | 宮古駅前広場、末広町、中央通り商店街 | | 神輿の運行、市民手踊り、太鼓、郷土芸能（26, 27 日）。海上花火大会（8 月 14 日） | 広報み 217 |
| 2014 | 8 | 2 | 潜水艦「うずしお」藤原ふ頭に入港 | | | 自衛隊の車両展示、資料配布、グッズ販売も。／海上自衛隊の潜水艦「うずしお」が宮古港に入港、藤原ふ頭で一般公開。宮古港入港は H16 年以来 10 年ぶり、歓迎セレモニーも開かれ、多くの来場客でにぎわう。広報活動、被災地支援、乗組員の休養を兼ねる。 | わが町 429 |
| 2014 | 8 | 3 | 重茂味まつり | 重茂漁港 | 重茂漁業協同組合 | 海藻小袋まき、アワビ捕り、焼きウニ造り体験、活ウニ・活アワビなどの海産物販売、本州最北端クルーズ、小田代直子民謡ショー、みやさと奏歌謡ショー、トド埼太鼓 | わが町 428 |
| 2014 | 8 | 3 | 浄土ヶ浜サマーフェスティバル | | | 子ども浴衣コンテスト　10:00-。シーカヤック体験試乗会　10:00-12:00、13:00-15:00。浄土ヶ浜ミニ縁日　10:00-14:00。ビーチサンダル飛ばし大会　11:15。爆笑ジャンボ竹竿スイカ割り大会　12:15-。久保田雅ショー　13:00-。小田代直子ショー　14:00- | 広報み 215<br>広報み 217 |
| 2014 | 8 | 10 | 宮古港ボート天国 | リアスハーバー宮古 | 宮古港ボート天国推進協議会 | プレジャーボート、ヨット、シーカヤック、水上バイク体験航海、クラフト、ミニプール体験他。 | わが町 428<br>わが町 429<br>広報み 215 |
| 2014 | 8 | 23 | いわて三陸鎮魂復興祭 | 浄土ヶ浜の特設ステージ | 幸せ出ずる国いわて実行委員会 | 市川猿之助さんのステージ、醍醐寺の声明や郷土芸能（宮古市「花輪小鹿踊り」、陸前高田「うごく七夕松原組」、大船渡「浜崎念仏剣舞」、普代村「鵜鳥神楽」、山田町「愛宕青年八木節」、大槌町「陸中弁天虎舞」、釜石「南部藩壽松院年行司支配太神楽」）など。／昨年に続き 2 度目。約 300 人の観客。大震災からの鎮魂と復興に向けて。 | わが町 429<br>広報み 215 |
| 2014 | 8 | 24 | 第14回宮古湾横断遠泳大会 | リアスハーバー宮古（磯鶏神林沖） | NPOいわてマリンフィールド | 宮古湾内 1.4 キロを横断、貝殻を使ったクラフト製作体験も。／定員 70 人（市内、県内からの 15 人、25 歳から 72 歳が参加、全員が完泳）。参加費用 2000 円。 | わが町 428<br>わが町 429<br>広報み 215 |
| 2014 | 9 | 13<br>−14 | 第3回　宮古市復興祭、みやこ秋まつり | 宮古市市街地、駅前イベント広場 | みやこ秋まつり実行委員会 | 手踊りパレード、船山車運行、ステージイベント、まつり広場 | 広報み 210<br>広報み 217 |
| 2014 | 9 | 20<br>−21 | 浄土ヶ浜さんまフェスタ | 浄土ヶ浜レストハウス前 | 宮古観光協会 | さんま一人一匹プレゼント、サンマすり身汁お振る舞い、サンマつかみどり（両日）。第 2 回宮古市 Sea 級グルメグランプリ「みやごのひっつみ」お振る舞い、マグロ解体ショー、マグロブロック争奪選抜クイズ（21 日） | 広報み 218 |
| 2014 | 10 | 4<br>−5 | 第20回宮古市大産業まつり | | | オープニングセレモニー　4 日　09:30 宮古若潮太鼓、餅まき、ステージイベント。第 20 回記念大抽選会、歌謡ショー、山口太鼓ほか市内各団体によるステージ、青森県黒石市の「つゆやきそば」の販売、第 3 回宮古市 Sea 級グルメコンテスト。／1 万 5740 人が訪問。 | 広報み 218<br>広報み 221 |
| 2014 | 10 | 12 | 三陸シーカヤックマラソンin宮古2014 | | | 震災後初めて震災前のレースコース（リアスハーバー宮古から浄土ヶ浜）で開催。78 人が参加。 | 広報み 221 |
| 2014 | 10 | 22<br>−23 | 宮古街なか Ultra復興祭 | 市中心街 | 宮古街なか復興市実行委ほか | 旬の果物野菜海産物や工芸品の販売、サンマのしちりん焼き、つみれ汁、盛岡さんさ踊り、仙台スズメ踊り、下閉伊地域の郷土芸能、市内の音楽芸能団体の公演など。／訪問客約 1 万 9 千人。 | 広報み 221 |
| 2014 | 10 | 19 | 本州最東端「鮭ヶ埼灯台」一般公開 | | 市商業観光課もてなし観光担当 | 参加者約 170 人 | 広報み 221<br>広報み 222 |
| 2014 | 11 | 1 | JR宮古駅開業80周年記念セレモニー | 宮古駅前広場 | JR宮古駅 | 宮古水産高校の生徒による太鼓の演奏、餅まき、記念品の配布 | 広報み 220<br>広報み 223 |
| 2014 | 11 | 1 | みやこ夢レールフェスタ | | みやこ夢レール創造事業実行委 | 物産販売、オープニングセレモニー、コンサート、ミニ SL 乗車会、宮古産食材の駅弁販売、閉会式、餅まき | 広報み 220<br>広報み 223 |
| 2014 | 11 | 19 | 第28回宮古サーモン・ハーフマラソン | | 宮古サーモン・ハーフマラソン大会実行委員会 | ハーフ、10 キロ、5 キロ、ペア（約 2 キロ、小学生以上で小学生を含むこと）の 4 部門。／ゲストランナー青山学院大学陸上競技部。レース後はサンマやサケ汁の振る舞いも。青山学院の陸上部参加。参加者 3293 人 ( 過去 3 位の多さ )。 | わが町 432<br>広報み 217<br>広報み 223 |
| 2014 | 11 | 23 | 鮭・あわびまつり | 田老第一中学校校庭 | 田老観光イベント実行委員会 | サケのつかみ取り体験、サケ・アワビなどの海産物の販売、各種農産物の販売、姉妹都市八幡平市の特産品コーナー、サケ汁のお振る舞い、郷土芸能や歌謡ショー、お笑いライブ、サケ釣りゲームコーナー、餅まき。 | 広報み 221<br>広報み 225 |
| 2014 | 12 | 21 | 第 43 回宮古鮭まつり　みやこサーモンフェスタ | 宮古駅前広場 | | 鮭のつかみどり、ステージショー、餅まき、はらこそば早食い大会、小学生のサケの絵画の展示など。／以前は新春に津軽石川河川敷で行われていたが、震災後変更になった。 | わが町 432<br>広報み 223<br>広報み 227 |

『広報みやこ』（表中は広報み）、『みやこわが町』（同、わが町）を参照して作成した。数が膨大であり、イベントでも市民を対象とし誘客につながっていないもの、内陸で行われているもの等は割愛した。